

授業科目	授業番号： 100			担当者	竹本 寛秋 木戸裕子
	日本文学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに移行するためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなる基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では，1. 古典文学研究に必要な文献学，書誌学の初歩とくずし字の読み方，2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩，3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で，日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】日本文学に関する基礎的な知識，変体仮名の読み方を習得する。</p> <p>演習や卒業研究に必要なディスカッションの仕方，論理的なレポートの書き方を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	第1回から第6回まで、5名前後のグループでグループワークを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社（担当者：木戸）</p> <p>(2) プリント（担当者：竹本）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い，ノートの取り方。</p> <p>第 2回 近代文学を学ぶとは：文学理論について</p> <p>第 3回 「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて</p> <p>第 4回 「作者」とは何か：作者／作品／テキストについて</p> <p>第 5回 「語り」とは何か：ナラトロジーについて</p> <p>第 6回 「物語」とは何か：物語の構造について</p> <p>第 7回 論文の書き方</p> <p>第 8回 総括1：前半のまとめ</p> <p>第 9回 古典文学を学ぶとは，仮名史について：くずし字の読み方1</p> <p>第10回 文献学（写本と板本），書誌学について：くずし字の読み方2</p> <p>第11回 古典の季節観と暦：くずし字の読み方3</p> <p>第12回 古典文学研究の方法1：くずし字小テスト</p> <p>第13回 古典文学研究の方法2：くずし字の読み方4</p> <p>第14回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり：くずし字の読み方5</p> <p>第15回 総括2：後半のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業で指示する課題など。				
成績評価の方法	授業で指示する課題など。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 101			担当者	楊 虹
	言語学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】言語と社会や文化とのかかわりを考えながら言語学を学ぶ。</p> <p>【概要】この授業では、言語学を社会や文化とのかかわりについて考えながら学ぶ。主に語用論を中心に言葉がどのように使われているかについて、関連する理論と実践を学ぶ。さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる発表を行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 言葉を使って何かをする 第 3回 発話行為論 第 4回 発話機能と語学教育 第 5回 協調の原理と4つの公理（1） 第 6回 協調の原理と4つの公理（2） 第 7回 ポライトネスとフェイス（1） 第 8回 ポライトネスとフェイス（2） 第 9回 日常会話の仕組み（1）話者交替 第 10回 日常会話の仕組み（2）対になる発話 第 11回 日常会話の仕組み（3）電話とSNS 第 12回 言語コミュニケーションと社会：対人関係 第 13回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第 14回 グループワーク 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	言葉の使い方や会話の仕組みを分析する課題を出す。				
成績評価の方法	授業での発言や参加度及び課題：50%，期末発表とレポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 102			担当者	小亀 拓也
	日本語学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語の各研究分野（音声・音韻，文字・表記，語彙・意味）について概観する。</p> <p>【到達目標】日本語学の基本的な考え方を身につけ，身の回りの言語現象をについて，分析・考察を通して思考を深め，的確に表現できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 沖森卓也ほか『図解日本語』（第2版）三省堂</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。</p> <p>第 2回 現代日本語の音声と音韻 1：音声器官，音声記号</p> <p>第 3回 現代日本語の音声と音韻 2：日本語の母音，母音の無声化，促音化</p> <p>第 4回 現代日本語の音声と音韻 3：日本語の子音，調音点・調音法・声帯振動</p> <p>第 5回 現代日本語の音声と音韻 4：音声と音韻，音素と異音</p> <p>第 6回 現代日本語の音声と音韻 5：相補分布，条件異音と自由異音，特殊音素</p> <p>第 7回 現代日本語の音声と音韻 6：拍（モーラ）と音節（シラブル）</p> <p>第 8回 現代日本語の音声と音韻 7：アクセント，イントネーション，プロミネンス</p> <p>第 9回 中間試験，前半のまとめ</p> <p>第 10回 現代日本語の文字・表記 1：日本語の表記の特色</p> <p>第 11回 現代日本語の文字・表記 2：漢字表，字音と字訓，漢字の成り立ち</p> <p>第 12回 現代日本語の文字・表記 3：平仮名，片仮名，ローマ字</p> <p>第 13回 現代日本語の語彙 1：語と語彙，語構成</p> <p>第 14回 現代日本語の語彙 2：語種（和語，漢語，外来語，混種語）</p> <p>第 15回 現代日本語の文法 3：語彙と語彙量（語彙の系統性，理解語彙と使用語彙）</p>				
授業外学習 (予習・復習)	各自事前にテキストを読んでもらうこと。また，毎授業冒頭に復習小テストを行うため，復習が必要である。				
成績評価の方法	小テストの成績（20%），中間試験の成績（40%），定期試験の成績（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 103			担当者	楊 虹
	日本語教育概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語教育学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる模擬授業を10分程度行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第 2 回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第 3 回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第 4 回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第 5 回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第 6 回 教材分析</p> <p>第 7 回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第 8 回 教授法②：授業見学</p> <p>第 9 回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第 10 回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第 11 回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第 12 回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第 13 回 フォリナートークとやさしい日本語</p> <p>第 14 回 模擬授業の準備</p> <p>第 15 回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜予習復習の課題を出すので、調べたり考えたりして積極的に取り組む必要である。				
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 104			担当者	小亀 拓也
	日本語史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・語彙・文法の観点から、資料を読み解きながら、その史的変遷を概観する。</p> <p>【到達目標】上代から近代までの各時代における音韻・文字・語彙・文法の特徴について、資料を根拠に分析・整理し、現代日本語の成立に至る過程を説明できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 沖森卓也『日本語全史』（ちくま新書）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 時代区分と資料：日本語の範囲，日本語の資料，日本語史の時代区分</p> <p>第 2回 奈良時代までの日本語 1：漢字の伝来，万葉仮名，上代特殊仮名遣い，頭音法則</p> <p>第 3回 奈良時代までの日本語 2：動詞の活用成立，形容詞・代名詞の整備，和語と漢語</p> <p>第 4回 平安時代の日本語 1：和文と漢文訓読文，平仮名・片仮名の誕生</p> <p>第 5回 平安時代の日本語 2：音韻の混同（ハ行転呼音），声調の表示，下一段活用の成立，ナリ活用とタリ活用</p> <p>第 6回 平安時代の日本語 3：音便と表記，代名詞，助動詞と助詞，漢語の日本語化</p> <p>第 7回 鎌倉時代の日本語 1：和漢混淆文，直音と拗音，開合，連声</p> <p>第 8回 鎌倉時代の日本語 2：終止形と連体形の合一化，ラ変と形容詞の活用変化，係り結びの崩壊</p> <p>第 9回 鎌倉時代の日本語 3：二段活用の一段化，コソアド体系の整備，助動詞類の変化，漢語の普及と意味変化</p> <p>第 10回 室町時代の日本語 1：天草本『伊曾保物語』，アクセントの変化，外来語の発達</p> <p>第 11回 室町時代の日本語 2：近代語法への変容，尊敬語・丁寧語の発達</p> <p>第 12回 江戸時代の日本語 1：上方語と江戸語，四つ仮名の区別の消滅，合拗音の直音化，漢語の多用，当て字</p> <p>第 13回 江戸時代の日本語 2：近代語法の確立，複合辞の増加，敬語表現の細分化</p> <p>第 14回 明治以降の日本語：言文一致，現代表記の確立，漢語の急増，外来語の使用</p> <p>第 15回 日本語学史</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：各自事前に予習資料に目を通してこること。／復習：授業で配布した文献資料等を再度読んでおくこと。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（60%），小テストの成績（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 105			担当者	小亀 拓也
	日本文法論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代日本語の文法について学ぶ。</p> <p>【概要】現代日本語の文法に関する基礎的な知識を身につける。</p> <p>【到達目標】現代日本語文法の基礎的な知識を、既存の知識との関係の中で整理・統合し、身の回りの言語現象を文法的に分析できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 1年次に「日本語学概論」で使用した教科書を持参すること。</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：文とは、文法とは</p> <p>第 2回 品詞論 1：名詞（普通名詞・固有名詞，代名詞，形式名詞）</p> <p>第 3回 品詞論 2：動詞（活用，自動詞・他動詞，意志動詞・無意志動詞，本動詞・補助動詞）</p> <p>第 4回 品詞論 3：形容詞，副詞，連体詞，接続詞，感動詞</p> <p>第 5回 品詞論 4：助詞（格助詞，副助詞，係助詞，接続助詞，終助詞）</p> <p>第 6回 品詞論 5：復習とまとめ</p> <p>第 7回 構文論 1：文の種類</p> <p>第 8回 構文論 2：ヴォイス（受身，使役）</p> <p>第 9回 構文論 3：アスペクト</p> <p>第 10回 構文論 4：テンス</p> <p>第 11回 構文論 5：モダリティ</p> <p>第 12回 構文論 6：連体修飾</p> <p>第 13回 構文論 7：条件節</p> <p>第 14回 構文論 8：「は」と「が」</p> <p>第 15回 まとめ</p> <p>以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習：次回授業までに配布された文献を読むこと。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（100%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 106		担当者	小亀 拓也	
	日本語学講義		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年次に「日本語学概論」で扱った諸問題についてより専門的な見地から分析・考察する。</p> <p>【概要】日本語学の諸分野（音声学・音韻論・意味論・統語論・語用論など）の基礎的な概念を踏まえ、具体的な言語現象を分析する。</p> <p>【到達目標】日本語学の基本的な考え方を習得し、身の回りの言語現象について、自力で分析・考察・表現できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 世界の言語における「日本語」の位置づけ</p> <p>第 2回 音の作り方1：母音と子音，アクセント，リズム，イントネーション</p> <p>第 3回 音の作り方2：単音と音素，弁別的素性，音素配列論</p> <p>第 4回 単語の仕組み：形態素，語根と接辞，複合と派生，逆成，縮約，異分析</p> <p>第 5回 意味の世界1：同音語と多義語，メタファー，メトニミー，シネクドキー</p> <p>第 6回 意味の世界2：同義語と類義語，対義語，レトロニム，カテゴリーとプロトタイプ</p> <p>第 7回 文の構造：構成素，樹形図，人称・性・数・格，冠詞</p> <p>第 8回 文の意味：文法カテゴリー（態，時，相，法）</p> <p>第 9回 談話の仕組み：文脈，直示，一貫性，結束性</p> <p>第 10回 会話の仕組み：発話行為，協調の原理，格率，会話分析</p> <p>第 11回 言語と変異：変異，地域方言，社会方言，多言語使用</p> <p>第 12回 言語と変化：言語接触，言語政策，言語計画</p> <p>第 13回 文の理解：構文解析，あいまい文，袋小路文，眼球運動</p> <p>第 14回 文の産出：言い間違い，語彙化，レンマ，舌先現象，プライミング</p> <p>第 15回 まとめ</p> <p>以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習：次回授業までに配布された文献を読んできてもらうこと。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（70%），小テストの成績（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 107		担当者	小亀 拓也	
	日本語学講読 I		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学の基本的な研究方法について学ぶ。</p> <p>【概要】「日本語学」という学問分野がどのような問題意識に基づくものであるのか、具体的にはどのような現象を対象とするのか、観察や分析の方法にはどのような観点があり得るのか、といったことについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】普段何気なく使用している「日本語」という言語について、既存の理解を相対化し、観点を立てて問いを設定しながら分析的に捉え、その特徴を客観的に説明できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 導入：辞書，単語，普通名詞，固有名詞</p> <p>第 2 回 意味 1：2つのカテゴリー観について</p> <p>第 3 回 意味 2：意味の拡張，同音異義と多義</p> <p>第 4 回 意味 3：比喻（直喩・隠喩・換喩・提喩）</p> <p>第 5 回 意味 4：「意義・言葉・経験」（渡辺実）</p> <p>第 6 回 意味 5：日本語の助詞・助動詞の多義</p> <p>第 7 回 日本語と他言語との比較（言語類型論）</p> <p>第 8 回 音声と文字：文字と標記の不一致，長音</p> <p>第 9 回 音声と書記：音の変化，語順，繰り返し</p> <p>第 10 回 あいまい文：意味理解，係り受け，省略</p> <p>第 11 回 話し言葉と書き言葉 1：話し言葉の特徴</p> <p>第 12 回 話し言葉と書き言葉 2：書き言葉の特徴</p> <p>第 13 回 コミュニケーションの失敗：会話の意図</p> <p>第 14 回 スタイルの違い：普通体と丁寧体，混淆</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p>以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習：次回授業までに配布されたプリントを読んてくること。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（50%），授業内課題（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 108		担当者	小亀 拓也	
	日本語学講読Ⅱ		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の方言（学）に関する基礎的な知識を学び、そこで得た知見をもとに自身の方言について分析・考察し、発表する。</p> <p>【概要】日本語の方言について、方言研究の各分野を概観する。学生諸氏にも調査・分析を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告してもらう。</p> <p>【到達目標】方言を多角的な視点から捉え、観点を立てて整理・考察することで、自身の方言を学問的観点から分析できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方の説明</p> <p>第 2回 方言区画</p> <p>第 3回 東西対立分布，周圏論的分布</p> <p>第 4回 逆周圏論的分布</p> <p>第 5回 言語変化の要因</p> <p>第 6回 方言タイプの分布，母音の地域差</p> <p>第 7回 東京弁アクセント，京都弁アクセント</p> <p>第 8回 「-3の規則」，鹿児島弁アクセント①</p> <p>第 9回 鹿児島弁アクセント②</p> <p>第 10回 鹿児島弁イントネーション</p> <p>第 11回 鹿児島弁の終助詞</p> <p>第 12回 方言と漫才</p> <p>第 13回 共通語化の進行，方言と共通語の使い分け</p> <p>第 14回 研究発表準備</p> <p>第 15回 研究発表</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）（50%），小テストの成績（40%），研究発表の成績（10%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 109			担当者	小亀 拓也
	日本語学演習 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する文献を読み、それをもとに議論する。</p> <p>【概要】授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】演習を通して、日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する諸現象を分析的に検討し、複数の捉え方の中から適切な説明を選択・構成する思考力・判断力を養う。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業、質疑応答やディスカッションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を説明，担当者を決める。</p> <p>第 2回 導入：教師による発表</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には（追加の補充調査を含め）15時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績（70%），質疑応答等の授業中の発言（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 110			担当者	小亀 拓也
	日本語学演習Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する研究の方法、および論文作成の方法を身につける。</p> <p>【概要】授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】演習を通して、日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する諸現象を分析的に検討し、複数の捉え方の中から適切な説明を選択・構成する思考力・判断力を養う。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業、質疑応答やディスカッションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を確認、担当者を決める。</p> <p>第 2回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には（追加の補充調査を含め）15時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績（70%）、質疑応答等の授業中の発言（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 111			担当者	小亀 拓也
	日本語学演習Ⅲ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する文献を読み、それをもとに議論する。</p> <p>【概要】授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】演習を通して、日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する諸現象を分析的に検討し、複数の捉え方の中から適切な説明を選択・構成する思考力・判断力を養う。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業、質疑応答やディスカッションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を説明，担当者を決める。</p> <p>第 2回 導入：教師による発表</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には（追加の補充調査を含め）15時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績（70%），質疑応答等の授業中の発言（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 112			担当者	楊 虹
	日本語学演習Ⅳ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	課題文を読んで、質問やコメントを考え、クラスで共有する活動を行います。ペアやグループでの話し合いを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。</p> <p>第 2回 語用論、社会言語学の分野の研究について</p> <p>第 3回 配慮を考えるときの視点①（2年生担当）</p> <p>第 4回 配慮を考えるときの視点②（2年生担当）</p> <p>第 5回 配慮を考えるときの視点③（2年生担当）</p> <p>第 6回 日本語の配慮の多面性①（1年生担当）</p> <p>第 7回 日本語の配慮の多面性②（1年生担当）</p> <p>第 8回 卒論中間報告（2年生）</p> <p>第 9回 役割語①（2年生担当）</p> <p>第 10回 役割語②（2年生担当）</p> <p>第 11回 談話分析（1年生）</p> <p>第 12回 会話分析（1年生）</p> <p>第 13回 卒論計画発表（1年生）</p> <p>第 14回 卒論発表練習（2年生）</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 113		担当者	楊 虹	
	日本語学演習V		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】語用論，社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める，簡単な学術的レポートが作成できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	課題文を読んで、質問やコメントを考え、クラスで共有する活動を行います。ペアやグループでの話し合いを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。</p> <p>第 2回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 レポート作成指導①</p> <p>第 6回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 レポート作成指導②</p> <p>第 8回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 レポート作成指導③</p> <p>第 11回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 レポート作成指導④</p> <p>第 13回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 レポートに基づく口頭発表</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	期末レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 114			担当者	楊 虹
	日本語学演習Ⅵ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	課題文を読んで、質問やコメントを考え、クラスで共有する活動を行います。ペアやグループでの話し合いを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。</p> <p>第 2回 語用論、社会言語学の分野の研究について</p> <p>第 3回 配慮を考えるときの視点①（2年生担当）</p> <p>第 4回 配慮を考えるときの視点②（2年生担当）</p> <p>第 5回 配慮を考えるときの視点③（2年生担当）</p> <p>第 6回 日本語の配慮の多面性①（1年生担当）</p> <p>第 7回 日本語の配慮の多面性②（1年生担当）</p> <p>第 8回 卒論中間報告（2年生）</p> <p>第 9回 役割語①（2年生担当）</p> <p>第 10回 役割語②（2年生担当）</p> <p>第 11回 談話分析（1年生）</p> <p>第 12回 会話分析（1年生）</p> <p>第 13回 卒論計画発表（1年生）</p> <p>第 14回 卒論発表練習（2年生）</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 115			担当者	小亀 拓也
	日本語表現法			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（特に文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】ことば（特に文章表現）によって事実を正確に示し、意見を的確に伝える方法を身につける。</p> <p>【到達目標】口頭発表やレポート作成、ディスカッション等を通して、他者の意見を踏まえつつ、自らの考えを整理・判断し、適切に表現できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	授業中にウェブフォームで回答してもらった内容をもとに、授業を進める。数回、ペアワークやグループワークがある。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1回 導入：自己紹介 第 2回 メールの書き方（講義編） 第 3回 メールの書き方（添削編） 第 4回 敬語①（敬語の5分類） 第 5回 敬語②（基本的な運用） 第 6回 敬語③（二重敬語と敬語連結） 第 7回 適切な日本語の運用（ラ抜き言葉など） 第 8回 中間試験，前半のまとめ 第 9回 ディスカッションの作法と実践 第 10回 ディベートの作法と実践 第 11回 レポートの書き方① 第 12回 レポートの書き方② 第 13回 レポートの書き方③ 第 14回 レポートの執筆 第 15回 レポートの提出・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	毎授業冒頭に小テストを行う。				
成績評価の方法	レポート（25%），小テスト（30%），中間試験（30%），授業内課題（15%）				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 116		担当者	小亀 拓也	
	日本語表現法演習		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を、演習を通して学ぶ。</p> <p>【概要】前期の日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポート作成、および口頭発表を行ってもらおう。この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体のものとして進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】口頭発表やレポート作成、ディスカッション等を通して、他者の意見を踏まえつつ、自らの考えを整理・判断し、適切に表現できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	授業中にウェブフォームで回答してもらった内容をもとに、授業を進める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1回 文章の構造（「論」と「例」①） 第 2回 文章の構造（「論」と「例」②） 第 3回 文章の構造（対比） 第 4回 文章の構造（類比） 第 5回 文章の構造（因果） 第 6回 パラグラフライティングの基礎①（雑メモとパラグラフメモ） 第 7回 パラグラフライティングの基礎②（雑メモ→パラグラフメモの実践） 第 8回 パラグラフライティングの基礎③（中心文について） 第 9回 パラグラフライティングの基礎④（中心文トレーニング） 第 10回 パラグラフライティングの基礎⑤（支持文について） 第 11回 パラグラフライティングの基礎⑥（支持文トレーニング） 第 12回 課題レポートの作成 第 13回 課題レポートの提出 第 14回 プレゼンテーションの基本①（目的と態度） 第 15回 プレゼンテーションの基本②（スライドのデザインと制作）				
授業外学習 （予習・復習）	毎授業冒頭に小テストを行う。				
成績評価の方法	成果資料の出来（50%），小テスト（30%），授業内課題（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 117			担当者	楊 虹
	対照言語学			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる模擬授業を10分程度行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2 回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3 回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4 回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5 回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6 回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7 回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8 回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9 回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第 10 回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第 11 回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第 12 回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第 13 回 発表準備 第 14 回 学生による発表 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度及び発表：60%，レポート：40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 118			担当者	木戸 裕子
	日本文学史・古典 I			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典 I は上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておきたい。</p> <p>【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 はじめに：オリエンテーション、文学の発生、文学史の区分</p> <p>第 2 回 古代その 1：上代の説話文学（1）</p> <p>第 3 回 古代その 2：上代の説話文学（2）</p> <p>第 4 回 古代その 3：上代の説話文学（3）</p> <p>第 5 回 古代その 4：祝詞・宣命</p> <p>第 6 回 古代その 5：漢詩文</p> <p>第 7 回 古代その 6：上代の和歌・歌謡（1）</p> <p>第 8 回 古代その 7：上代の和歌・歌謡（2）</p> <p>第 9 回 古代その 8：上代の和歌・歌謡（3）</p> <p>第 10 回 古代その 9：中古の漢詩文（1）</p> <p>第 11 回 古代その 10：中古の漢詩文（2）</p> <p>第 12 回 古代その 11：中古の和歌（1）</p> <p>第 13 回 古代その 12：中古の和歌（2）</p> <p>第 14 回 古代その 13：中古の物語（1）</p> <p>第 15 回 古代その 14：中古の物語（2）</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30%、筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

(注) 隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 119			担当者	木戸 裕子
	日本文学史・古典Ⅱ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 古代その 15：中古の物語（3）源氏物語</p> <p>第 2 回 古代その 16：中古の物語（4）源氏物語</p> <p>第 3 回 古代その 17：中古の日記</p> <p>第 4 回 古代その 18：中古の随筆</p> <p>第 5 回 古代その 19：中古の歴史物語</p> <p>第 6 回 古代その 20：中古の説話</p> <p>第 7 回 中世その 1：中世の和歌（1）</p> <p>第 8 回 中世その 2：中世の和歌（2）</p> <p>第 9 回 中世その 3：中世の和歌（3）</p> <p>第 10 回 中世その 4：連歌・歌謡</p> <p>第 11 回 中世その 5：中世の漢詩文</p> <p>第 12 回 中世その 6：物語・日記・紀行・随筆</p> <p>第 13 回 中世その 7：歴史物語・説話文学</p> <p>第 14 回 中世その 8：戦記物語・謡曲</p> <p>第 15 回 中世その 9：謡曲・狂言</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30%，筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

(注) 隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 120		担当者	木戸 裕子
	日本文学講義 I		授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	2年	後期	2単位	選択
				[授業形態]
				講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】紫式部と一条朝の女房達</p> <p>【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを辛辣に批判している。また、その他の同僚女房についても赤染衛門や和泉式部について長所や短所を交えて批評している。自分自身については漢字の一の字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。『紫式部日記』の記述と、それ以外の史料から見て取れる彼女たちの実態はどのように違うのか、又は同じなのか。紫式部と周囲の女房達について検討し、平安中期の女性の生き方について考える。</p> <p>【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。 平安時代の女性の生き方を考える。</p>			
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 服藤早苗『平安朝 女の生き方』小学館 ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫 ビギナーズクラシック『紫式部日記』角川ソフィア文庫 上村悦子『王朝の秀歌人 赤染衛門』新典社 久保木寿子『和泉式部 実存を見つめる』新典社</p>			
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：『紫式部日記』に見る女房評</p> <p>第 2回 紫式部（1）：紫式部の系図と女房出仕の経緯</p> <p>第 3回 紫式部（2）：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」</p> <p>第 4回 紫式部（3）：源氏物語</p> <p>第 5回 清少納言（1）：清少納言の系図と女房出仕の経緯</p> <p>第 6回 清少納言（2）：『枕草子』随想的章段に見る清少納言の仕事観</p> <p>第 7回 清少納言（3）：『枕草子』日記的章段に見る清少納言と定子</p> <p>第 8回 和泉式部（1）：和泉式部の系図と説話に見る評判</p> <p>第 9回 和泉式部（2）：『和泉式部日記』和泉式部は恋多き女か</p> <p>第 10回 和泉式部（3）：『和泉式部集』歌人和泉式部</p> <p>第 11回 赤染衛門（1）：赤染衛門の系図と赤染衛門良妻賢母説</p> <p>第 12回 赤染衛門（2）：『赤染衛門集』夫大江匡衡との関係</p> <p>第 13回 赤染衛門（3）：『赤染衛門集』代作する赤染衛門</p> <p>第 14回 赤染衛門（4）：『赤染衛門集』赤染衛門と清少納言、和泉式部</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	授業中に指示する			
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）20%，レポート80%			
実務経験について	なし			

授業科目	授業番号： 121		担当者	木戸 裕子
	日本文学講読 I		授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	1年	前期	1単位	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『万葉集』巻五の講読を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『万葉集』は現存する日本最古の歌集だが、その中でも巻五は大伴家持の父大伴旅人が大宰帥であった時の大宰府・筑紫で読まれた歌を中心とする巻である。令和の元号の出典となった梅花の宴の序と歌群もこの巻に収められている。旅人や山上憶良たちの和歌を詠むことで上代人にとっての歌とは何かを考えたい。本講読は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『万葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。</p>			
学生の主体的・対話的な学び	受講生が担当して発表した内容について、教員がコメントする。			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 佐竹昭広・山田英雄・工藤力男・大谷雅夫・山崎福之校注『万葉集』(2) 岩波文庫</p> <p>(2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院 大谷雅夫『万葉集に会う』岩波新書</p>			
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション 『万葉集』について (編者, 諸本, 万葉仮名など)</p> <p>第 2回 巻五について 1: 大伴旅人と山上憶良について。教員による模範演習</p> <p>第 3回 『万葉集』巻五輪読その 1: 雑歌 1</p> <p>第 4回 その 2: 雑歌 2</p> <p>第 5回 その 3: 雑歌 3</p> <p>第 6回 その 4: 雑歌 4</p> <p>第 7回 その 5: 雑歌 5</p> <p>第 8回 その 6: 雑歌 6</p> <p>第 9回 巻五について 2: 筑紫歌壇とは</p> <p>第 10回 『万葉集』巻五輪読その 7: 雑歌 7</p> <p>第 11回 その 8: 雑歌 8</p> <p>第 12回 その 9: 雑歌 9</p> <p>第 13回 その 10: 雑歌 10</p> <p>第 14回 その 11: 雑歌 11</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	輪読担当の準備。『万葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。			
成績評価の方法	輪読担当 60%, レポート 40%			
実務経験について	なし			

授業科目	授業番号： 122		担当者	木戸 裕子
	日本文学講読Ⅱ		授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	1年	後期	1単位	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。</p> <p>基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>			
学生の主体的・対話的な学び	特になし			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『字典かな』笠間書院</p> <p>(2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫、渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>			
授業 スケジュール	<p>第 1回 はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など）</p> <p>第 2回 初段1：昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第 3回 初段2：和歌と語りの関係 変体仮名の読み方2</p> <p>第 4回 三段：二条後の物語その1 変体仮名の読み方3</p> <p>第 5回 四段：二条後の物語その2 変体仮名の読み方4</p> <p>第 6回 五段：二条後の物語その3 変体仮名の読み方小テスト1</p> <p>第 7回 六段1：二条後の物語その4</p> <p>第 8回 六段2：二条の後の物語その5</p> <p>第 9回 七・八段：東下りその1 浅間の山</p> <p>第10回 九段1：東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第11回 九段2：東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第12回 六九段1：伊勢の齋宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト2</p> <p>第13回 六九段2：伊勢の齋宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第14回 一六段：男の友情</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。			
成績評価の方法	小テスト20%、筆記試験80%			
実務経験について	なし			

授業科目	授業番号： 123		担当者	木戸 裕子	
	日本文学講読Ⅲ		授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読む</p> <p>【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一卷を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「明石」を読む。「明石」は源氏物語五十四帖の一三番目の巻だが、光源氏の前半生で最も大きな危機が訪れると同時に源氏の後半生の栄華の基盤となる明石の君との出会いも描かれる巻である。光源氏の人生の転機となる明石巻を丁寧に読んでいく。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書 源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成について考える。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	受講生が担当して発表した内容について、教員がコメントする。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 坂本信道 編『首書 源氏物語 明石』和泉書院</p> <p>(2) ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 桐壺』至文堂</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 はじめに：『源氏物語』とは 作者紫式部について</p> <p>第 2回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について</p> <p>第 3回 「明石」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。</p> <p>第 4回 「明石」輪読：その1 担当の役割説明</p> <p>第 5回 「明石」輪読：その2</p> <p>第 6回 「明石」輪読：その4</p> <p>第 7回 「明石」輪読：その5</p> <p>第 8回 補足説明：『源氏物語』の構想と明石の君の役割</p> <p>第 9回 「明石」輪読：その6</p> <p>第10回 「明石」輪読：その7</p> <p>第11回 「明石」輪読：その8</p> <p>第12回 「明石」輪読：その9</p> <p>第13回 「明石」輪読：その10</p> <p>第14回 「明石」輪読：その11</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当 50%，筆記試験 50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 124		担当者	木戸 裕子
	日本文学演習 I		授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	1年	後期	1単位	選択
				[授業形態]
				演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の歌物語的を輪読し，歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は，新たに1年生が加わり，1年生の日本文学演習 I と2年生の日本文学演習 III を合同で行なうことにより，2年生には1年生に説明することで，いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また，1年生には，2年生の発表を聴くことを通して，調査，発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習 II と同じく『嵯峨本伊勢物語』である。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。 調査・発表の方法を学ぶ。平安時代の文学状況を理解する</p>			
学生の主体的・対話的な学び	1, 2年生混合でグループワークを行う。			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』『嵯峨本伊勢物語』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>			
授業 スケジュール	<p>第 1回 2年生によるオリエンテーション：作品概要の説明</p> <p>第 2回 グループワーク 1：演習の進め方について。辞書索引の引き方，資料の探し方</p> <p>第 3回 グループワーク 2：翻字と解釈の実習</p> <p>第 4回 グループワーク 3：翻字と解釈の実習その 2</p> <p>第 5回 嵯峨本伊勢物語を読む：1</p> <p>第 6回 嵯峨本伊勢物語を読む：2</p> <p>第 7回 嵯峨本伊勢物語を読む：3</p> <p>第 8回 嵯峨本伊勢物語を読む：4</p> <p>第 9回 嵯峨本伊勢物語を読む：5</p> <p>第 10回 嵯峨本伊勢物語を読む：6</p> <p>第 11回 嵯峨本伊勢物語を読む：7</p> <p>第 12回 嵯峨本伊勢物語を読む：8</p> <p>第 13回 嵯峨本伊勢物語を読む：9</p> <p>第 14回 嵯峨本伊勢物語を読む：10</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	演習担当の準備			
成績評価の方法	<p>日本文学演習 I 担当時外発言 20%，レポート 80%</p> <p>日本文学演習 III 担当時外発言 20%，担当発表 80%</p>			
実務経験について	なし			

授業科目	授業番号： 125		担当者	木戸 裕子
	日本文学演習Ⅱ		授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	2年	前期	1単位	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の歌物語的を輪読し，歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『嵯峨本伊勢物語』を読む。嵯峨本伊勢物語は，1年前期の講読Ⅱで扱った作品だが，講読Ⅱでは読み切れなかった章段を学生の担当で読む。平安時代における，物語と和歌の関係を考えるとともに，平安時代の貴族の生活と文化について知見を深めたい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。</p>			
学生の主体的・対話的な学び	担当者が発表した内容について、全員で討議する。			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』『嵯峨本伊勢物語』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>			
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：前年度の内容の確認</p> <p>第 2回 嵯峨本伊勢物語について：</p> <p>第 3回 嵯峨本伊勢物語を読む：1</p> <p>第 4回 嵯峨本伊勢物語を読む：2</p> <p>第 5回 嵯峨本伊勢物語を読む：3</p> <p>第 6回 嵯峨本伊勢物語を読む：4</p> <p>第 7回 嵯峨本伊勢物語を読む：5</p> <p>第 8回 嵯峨本伊勢物語を読む：6</p> <p>第 9回 嵯峨本伊勢物語を読む：7</p> <p>第 10回 嵯峨本伊勢物語を読む：8</p> <p>第 11回 嵯峨本伊勢物語を読む：9</p> <p>第 12回 嵯峨本伊勢物語を読む：10</p> <p>第 13回 嵯峨本伊勢物語を読む：11</p> <p>第 14回 嵯峨本伊勢物語を読む：12</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	演習担当の準備			
成績評価の方法	担当発表 80%，担当時以外の発言（質問，意見など）20%			
実務経験について	なし			

授業科目	授業番号： 126		担当者	木戸 裕子
	日本文学演習Ⅲ		授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	2年	後期	1単位	選択
				[授業形態]
				演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の歌物語的を輪読し，歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は，新たに1年生が加わり，1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより，2年生には1年生に説明することで，いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また，1年生には，2年生の発表を聴くことを通して，調査，発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱと同じく『嵯峨本伊勢物語』である。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。 調査・発表の方法を学ぶ。平安時代の文学状況を理解する</p>			
学生の主体的・対話的な学び	1, 2年生混合でグループワークを行う。			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント、『字典かな』『嵯峨本伊勢物語』</p> <p>(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院</p>			
授業 スケジュール	<p>第 1回 2年生によるオリエンテーション：作品概要の説明</p> <p>第 2回 グループワーク1：演習の進め方について。辞書索引の引き方，資料の探し方</p> <p>第 3回 グループワーク2：翻字と解釈の実習</p> <p>第 4回 グループワーク3：翻字と解釈の実習その2</p> <p>第 5回 嵯峨本伊勢物語を読む：1</p> <p>第 6回 嵯峨本伊勢物語を読む：2</p> <p>第 7回 嵯峨本伊勢物語を読む：3</p> <p>第 8回 嵯峨本伊勢物語を読む：4</p> <p>第 9回 嵯峨本伊勢物語を読む：5</p> <p>第 10回 嵯峨本伊勢物語を読む：6</p> <p>第 11回 嵯峨本伊勢物語を読む：7</p> <p>第 12回 嵯峨本伊勢物語を読む：8</p> <p>第 13回 嵯峨本伊勢物語を読む：9</p> <p>第 14回 嵯峨本伊勢物語を読む：10</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	演習担当の準備			
成績評価の方法	<p>日本文学演習Ⅰ 担当時外発言 20%，レポート 80%</p> <p>日本文学演習Ⅲ 担当時外発言 20%，担当発表 80%</p>			
実務経験について	なし			

授業科目	授業番号： 127			担当者	竹本 寛秋
	日本文学講義Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマで読み解く詩</p> <p>【概要】明治より現在に至る近現代詩を，様々なテーマを切り口にして読解する。実際の作品を読み解きながら，表現と時代に深いつながりがあることを理解し，多様な日本の「詩」について，考察できる能力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。現代の社会や文化について，相対的に考え，自己の考えを形成する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回リアクションペーパーに記入してもらい、その内容に毎回教員がコメントをつけて応答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 大岡信『蕩児の家系—日本現代詩の歩み』（思潮社），他授業中に紹介する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：日本の詩を読むために</p> <p>第 2回 恋愛</p> <p>第 3回 結婚</p> <p>第 4回 音楽</p> <p>第 5回 戦争</p> <p>第 6回 韻律</p> <p>第 7回 仕事</p> <p>第 8回 前半のまとめ</p> <p>第 9回 イメージ・言語実験</p> <p>第10回 こども</p> <p>第11回 世界認識</p> <p>第12回 都市・機会</p> <p>第13回 労働問題</p> <p>第14回 動物</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	対象テキストの精読。				
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)， レポート (60%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 128			担当者	丹羽 謙治
	日本文学講読Ⅳ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】西鶴作品鑑賞</p> <p>【概要】江戸時代前期の散文作品のうち、井原西鶴の浮世草子作品を鑑賞する。浮世草子という娯楽的な作品を多数世に送り出した井原西鶴が、どのような視点から当代の社会を描いたのかを考察しながら読み進める。作品としては『好色一代男』『西鶴諸国はなし』『新可笑記』『世間胸算用』『西鶴置土産』『武家義理物語』をとりあげる。</p> <p>【到達目標】江戸時代前期の風俗や習慣を正しく理解し、才學の人間を描く手法、文章表現の方法を説明することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 新日本古典文学全集『井原西鶴集①～④』（小学館）				
授業 スケジュール	第 1 回 近世という時代 第 2 回 出版の歴史 第 3 回 仮名草子の世界（『因果物語』鑑賞） 第 4 回 仮名草子の世界（『伽倻子』鑑賞） 第 5 回 好色一代男の成立と浮世草子 第 6 回 『好色一代男』巻1の1 第 7 回 『好色一代男』巻5の1 第 8 回 『西鶴諸国はなし』巻1の4 第 9 回 『西鶴諸国はなし』巻3の2 第 10 回 『懷硯』巻4の4 第 11 回 『世間胸算用』巻1の4 第 12 回 『世間胸算用』巻4の1 第 13 回 『新可笑記』巻1の4 第 14 回 『西鶴置土産』巻2の2 第 15 回 『武家義理物語』巻1の5				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示。				
成績評価の方法	期末試験（100%）。				
実務経験について	なし				

特になし。

授業科目	授業番号： 129		担当者	丹羽 謙治
	日本文学講読V		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	1,2年	後期	1単位	選択
				[授業形態]
				演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 仮名手本忠臣蔵を読む</p> <p>【概要】 元禄14年(1701)から16年にかけて江戸で発生した赤穂事件に取材した浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』を読み解きながら、脚本に込められた意図や演劇手法について解説を加える。併せてビデオで作品の鑑賞を行い、歌舞伎と浄瑠璃の演劇的な特徴について解説する。</p> <p>【到達目標】 江戸時代の演劇の本質とその手法について正しく説明することができる。</p>			
学生の主体的・対話的な学び	特になし。			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 新潮日本古典集成『仮名手本忠臣蔵』(新潮社)</p>			
授業 スケジュール	<p>第1回 赤穂事件の概要：元禄14年(1701)</p> <p>第2回 赤穂事件の概要：元禄15年以降</p> <p>第3回 江戸時代の演劇：浄瑠璃と歌舞伎</p> <p>第4回 『仮名手本忠臣蔵』第一</p> <p>第5回 『仮名手本忠臣蔵』第二</p> <p>第6回 『仮名手本忠臣蔵』第三(刃傷)</p> <p>第7回 『仮名手本忠臣蔵』第四</p> <p>第8回 『仮名手本忠臣蔵』第五</p> <p>第9回 歌舞伎の趣向</p> <p>第10回 『仮名手本忠臣蔵』第六(前半)</p> <p>第11回 『仮名手本忠臣蔵』第六(後半)</p> <p>第12回 『仮名手本忠臣蔵』第七</p> <p>第13回 『仮名手本忠臣蔵』第八</p> <p>第14回 絵画と忠臣蔵</p> <p>第15回 『仮名手本忠臣蔵』第十一(討入)</p>			
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示。			
成績評価の方法	期末試験(100%)。			
実務経験について	なし			

特になし。

授業科目	授業番号： 130		担当者	竹本 寛秋
	日本文学講読Ⅵ		授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	1年	後期	1単位	選択
				[授業形態]
				演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近代の文学テキストを、様々な角度から検討する方法を学び、小冊子の編集を通して他者に伝達する方法を学ぶ。</p> <p>【概要】日本近代の小説を題材として、様々な方法論を使って読み解く。物語構造、小説の語り（ナラティブ）、時代背景の調査、都市空間論、間テキスト性などについて学び、具体的な小説に即して読みを広げる。その上で、その学びの成果を編集して小冊子を作成する。</p> <p>【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p> <p>具体的な小説テキストについて、その方法論を適用できる。学びの成果を、わかりやすくまとめて伝えることができる。</p>			
学生の主体的・対話的な学び	5名程度でグループを作り、調査をして、プレイステーションを行います。授業の内容を踏まえた小冊子を作成します。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。			
授業 スケジュール	第 1回 ガイダンス 第 2回 注釈作業について 第 3回 注釈作業について 芥川龍之介「舞踏会」を例に 第 4回 時代背景の調査 中島敦「マリアン」を例に 第 5回 物語構造 宮澤賢治「猫の事務所」を例に 第 6回 語り（ナラティブ） 太宰治「トカトントン」を例に 第 7回 間テキスト性 芥川龍之介「羅生門」を例に 第 8回 グループ発表1 注釈作業 芥川龍之介「羅生門」 第 9回 グループ発表2 時代背景の調査 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 第 10回 グループ発表3 物語構造 宮澤賢治「よだかの星」 第 11回 グループ発表4 語り（ナラティブ） 太宰治「誰も知らぬ」 第 12回 グループ発表5 間テキスト性 太宰治「御伽草子 瘤取り」 第 13回 小冊子作成の準備作業（1） 第 14回 小冊子作成の準備作業（2） 第 15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)	対象テキストの精読と検討。小冊子作成の準備。			
成績評価の方法	授業での活動（40%）、最終成果物の作成（60%）			
実務経験について	なし			

授業科目	授業番号： 131		担当者	竹本 寛秋	
	日本文学講読Ⅶ		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】唱歌・校歌・童謡について，その歴史と表現を学び，調査をもとに検討する。</p> <p>【概要】唱歌・校歌・童謡は，日本近代において生み出された文学表現であり，多くは現代まで歌い継がれている。一方で，これらの成り立ちは多様であるにもかかわらず，大きく「日本の昔のうた」とくくられ，ジャンル相互の差異や，個別のテキストの表現の違いについて，細かく考えられていないように思える。この授業では，これらジャンルの成立背景について学ぶとともに，受講者が自らの出身校の校歌などを調査することを通し，「日本の歌」の多様性について考え，文学や文化の出現と継承について考える力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】唱歌・校歌・童謡について，歴史的背景，それらの表現を分析する方法を理解する。</p> <p>受講者の興味に従って校歌について調査し，テキストについて分析を行い，それをわかりやすくまとめて伝え，ディスカッションすることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	受講者のそれぞれが，自分の出身校の校歌などを題材として調査を行い，プレイステーションを行います。発表の内容をもとにディスカッションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 渡辺裕『歌う国民』（中公新書），周東美材『童謡の近代』（岩波書店），他適宜，授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 唱歌について</p> <p>第 3回 唱歌について 2</p> <p>第 4回 童謡について 1</p> <p>第 5回 童謡について 2</p> <p>第 6回 校歌について</p> <p>第 7回 調査と発表について</p> <p>第 8回 発表準備</p> <p>第 9回 発表準備 2</p> <p>第 10回 学生による発表 1</p> <p>第 11回 学生による発表 2</p> <p>第 12回 学生による発表 3</p> <p>第 13回 学生による発表 4</p> <p>第 14回 学生による発表 5</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	校歌についての調査。発表の準備。				
成績評価の方法	授業での発表・活動 (50%)，レポート (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 132		担当者	竹本 寛秋	
	日本文学演習Ⅳ		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	担当するテキストについて、調査、検討を行い、発表資料を作成して発表を行います。発表をもとにディスカッションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定</p> <p>第 2回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について</p> <p>第 3回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について</p> <p>第 4回 口頭発表（1）</p> <p>第 5回 口頭発表（2）</p> <p>第 6回 口頭発表（3）</p> <p>第 7回 口頭発表（4）</p> <p>第 8回 口頭発表（5）</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 口頭発表（6）</p> <p>第 11回 口頭発表（7）</p> <p>第 12回 口頭発表（8）</p> <p>第 13回 口頭発表（9）</p> <p>第 14回 口頭発表（10）</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。				
成績評価の方法	口頭発表等（70%）、討議での発言・参加（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 133			担当者	竹本 寛秋
	日本文学演習V			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近現代における文学作品を対象として，論文作成の方法を身につける</p> <p>【概要】明治以降の日本近代文学作品について，論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し，論点を発見して論理的な考察を行い，他者と共有できるように言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために，さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p>【到達目標】日本近代文学の作品について，選択したテキストから論点を発見し，論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し，自己の発表に生かすことができる。発表をもとに，ディスカッションすることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	担当するテキストについて，調査，検討を行い，発表資料を作成して発表を行います。発表をもとにディスカッションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 斎藤理生他編『卒業論文マニュアル 日本近現代文学編』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方，研究論文を作成する意義</p> <p>第 2回 対象となる作品の決定，文学理論について</p> <p>第 3回 発表資料の作成，発表の方法，ディスカッションの方法について</p> <p>第 4回 口頭発表（1）</p> <p>第 5回 口頭発表（2）</p> <p>第 6回 口頭発表（3）</p> <p>第 7回 口頭発表（4）</p> <p>第 8回 口頭発表（5）</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 口頭発表（6）</p> <p>第 11回 口頭発表（7）</p> <p>第 12回 口頭発表（8）</p> <p>第 13回 口頭発表（9）</p> <p>第 14回 論文作成の方法について</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	論文収集，資料作成，発表準備など。				
成績評価の方法	口頭発表，ディスカッションでの発言（40%），レポート（60%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 134			担当者	竹本 寛秋
	日本文学演習Ⅵ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	担当するテキストについて、調査、検討を行い、発表資料を作成して発表を行います。発表をもとにディスカッションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定</p> <p>第 2回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について</p> <p>第 3回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について</p> <p>第 4回 口頭発表（1）</p> <p>第 5回 口頭発表（2）</p> <p>第 6回 口頭発表（3）</p> <p>第 7回 口頭発表（4）</p> <p>第 8回 口頭発表（5）</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 口頭発表（6）</p> <p>第 11回 口頭発表（7）</p> <p>第 12回 口頭発表（8）</p> <p>第 13回 口頭発表（9）</p> <p>第 14回 口頭発表（10）</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。				
成績評価の方法	口頭発表等（70%）、討議での発言・参加（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 135			担当者	土肥 克己
	中国文学史 I			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間の対話を促します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 詩経 (1)</p> <p>第 3回 詩経 (2)</p> <p>第 4回 詩経 (3)</p> <p>第 5回 楚辞 (1)</p> <p>第 6回 楚辞 (2)</p> <p>第 7回 楚辞 (3)</p> <p>第 8回 諸子 (1)</p> <p>第 9回 諸子 (2)</p> <p>第10回 諸子 (3)</p> <p>第11回 辞賦 (1)</p> <p>第12回 辞賦 (2)</p> <p>第13回 辞賦 (3)</p> <p>第14回 辞賦 (4)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	定期試験 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 136			担当者	土肥 克己
	中国文学史Ⅱ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間の対話を促します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 楽府 (1)</p> <p>第 2回 楽府 (2)</p> <p>第 3回 楽府 (3)</p> <p>第 4回 五言詩 (1)</p> <p>第 5回 五言詩 (2)</p> <p>第 6回 五言詩 (3)</p> <p>第 7回 志怪小説 (1)</p> <p>第 8回 志怪小説 (2)</p> <p>第 9回 志怪小説 (3)</p> <p>第10回 近体詩 (1)</p> <p>第11回 近体詩 (2)</p> <p>第12回 近体詩 (3)</p> <p>第13回 伝奇 (1)</p> <p>第14回 伝奇 (2)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	定期試験 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 137			担当者	土肥 克己
	中国文学講読 I			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文の文法</p> <p>【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文（白文）を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 基本文型 (1) 第 3回 基本文型 (2) 第 4回 基本文型 (3) 第 5回 基本文型 (4) 第 6回 基本文型 (5) 第 7回 基本文型 (6) 第 8回 副詞 第 9回 基本文型の連続 第 10回 フレーズ (1) 第 11回 フレーズ (2) 第 12回 フレーズ (3) 第 13回 フレーズ (4) 第 14回 フレーズ (5) 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	小テスト 50%， 定期試験 50%				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 138			担当者	土肥 克己
	中国文学講読Ⅱ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っていると役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 漢字 (1) 第 3回 漢字 (2) 第 4回 漢字 (3) 第 5回 漢字 (4) 第 6回 漢字 (5) 第 7回 漢文 (1) 第 8回 漢文 (2) 第 9回 漢文 (3) 第 10回 漢文学 (1) 第 11回 漢文学 (2) 第 12回 中国文学 (1) 第 13回 中国文学 (2) 第 14回 中国文学 (3) 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 139		担当者	土肥 克己
	中国文学演習 I		授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	1年	後期	1単位	選択
授業形態	演習方式			
テーマ及び概要	<p>【テーマ】白居易の作品を読む</p> <p>【概要】白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。</p> <p>【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。</p>			
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返します。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)			
授業 スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 講読 (1) 第 3回 講読 (2) 第 4回 講読 (3) 第 5回 講読 (4) 第 6回 講読 (5) 第 7回 講読 (6) 第 8回 講読 (7) 第 9回 講読 (8) 第 10回 講読 (9) 第 11回 講読 (10) 第 12回 講読 (11) 第 13回 講読 (12) 第 14回 講読 (13) 第 15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。			
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。			
実務経験について	なし			

授業科目	授業番号： 140			担当者	土肥 克己
	中国文学演習Ⅱ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文</p> <p>【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島島の漢文石碑を調査し、漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。</p> <p>【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間で議論します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 文献調査の基礎 (1) 第 3回 文献調査の基礎 (2) 第 4回 論文の読み方 第 5回 石碑調査 (1) 第 6回 石碑調査 (2) 第 7回 石碑調査 (3) 第 8回 石碑調査 (4) 第 9回 石碑調査 (5) 第 10回 プレゼン練習 (1) 第 11回 プレゼン練習 (2) 第 12回 プレゼン練習 (3) 第 13回 プレゼン練習 (4) 第 14回 プレゼン練習 (5) 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。				
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 141			担当者	土肥 克己
	中国文学演習Ⅲ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する</p> <p>【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み、整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、学問的に探求する姿勢を習得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間で議論します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 論文整理と発表 (1) 第 3回 論文整理と発表 (2) 第 4回 論文整理と発表 (3) 第 5回 論文整理と発表 (4) 第 6回 論文整理と発表 (5) 第 7回 論文整理と発表 (6) 第 8回 論文整理と発表 (7) 第 9回 論文整理と発表 (8) 第 10回 論文整理と発表 (9) 第 11回 論文整理と発表 (10) 第 12回 論文整理と発表 (11) 第 13回 論文整理と発表 (12) 第 14回 論文整理と発表 (13) 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	関係論文を調査し、発表に備えてください。				
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 142			担当者	専攻教員全員
	卒業研究 I			授業外対応	各教員から適宜指示
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。</p> <p>1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次前期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめます。教員は演習と連動させながら卒業研究課題のしぼり込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の準備と中間報告</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間で議論します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 オリエンテーション：卒業論文の進め方 第 2回 論文作成：その1 第 3回 論文作成：その2 第 4回 論文作成：その3 第 5回 論文作成：その4 第 6回 論文作成：その5 第 7回 論文作成：その6 第 8回 論文作成：その7 第 9回 論文作成：その8 第 10回 論文作成：その9 第 11回 論文作成：その10 第 12回 論文作成：その11 第 13回 論文作成：その12 第 14回 論文作成：その13 第 15回 論文作成：まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	中間報告 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 143			担当者	専攻教員全員
	卒業研究Ⅱ			授業外対応	各教員から適宜指示
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。</p> <p>2年次後期は卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。教員は演習と連動させながら卒業研究課題のしぼり込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間で議論します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 論文作成：その1 第 2回 論文作成：その2 第 3回 論文作成：その3 第 4回 論文作成：その4 第 5回 論文作成：その5 第 6回 論文作成：その6 第 7回 論文作成：その7 第 8回 論文作成：その8 第 9回 論文作成：その9 第 10回 論文作成：その10 第 11回 論文作成：その11 第 12回 論文作成：その12 第 13回 論文作成：その13 第 14回 論文作成：その14 第 15回 論文作成：まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	卒業論文 75%，口頭発表 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 144			担当者	小林 朋子
	米文学史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期,後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。作品に使用されて</p> <p>【到達目標】アメリカ文学史上、代表的な作品についてその内容を理解している。アメリカ文学が描いてきたアメリカ社会・文化について理解を深め、その知見に基づいて多角的に現代のアメリカ文化を理解できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、作品内容や自分の訳文について、グループもしくはペアで議論する時間を設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、2004年）</p> <p>(2) 授業で随時紹介します</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 イントロダクションーネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第 2回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（1）</p> <p>第 3回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（2）</p> <p>第 4回 「驚異」の世界ーロマン主義の勃興</p> <p>第 5回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（1）</p> <p>第 6回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（2）</p> <p>第 7回 「金めつき時代」ーリアリズムの勃興</p> <p>第 8回 危機と革新ーリアリズムの展開</p> <p>第 9回 繁栄と解放の文学ーロスト・ジェネレーション</p> <p>第 10回 世界へ向けてーモダニズムの文学</p> <p>第 11回 戦後文学の出発ー第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第 12回 自我をつくろうー人種系文学（1）</p> <p>第 13回 自我をつくろうー人種系文学（2）</p> <p>第 14回 自己の探求ーポスト・モダニズムの文学</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 145			担当者	木戸 裕子
	読書と豊かな人間性			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考える。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。</p> <p>様々な読書活動の方法を知る。大勢の前でプレゼンテーションを行う。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	15回の講義の中で、グループディスカッションと発表の時間が1回、ブックトークの準備のグループワークが2、3回ある。最後の回でプレゼンテーションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第2回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第3回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第4回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携</p> <p>第5回 読書教育の方法1：就学前・学校全体</p> <p>第6回 読書教育の方法2：教科と読書教育</p> <p>第7回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ</p> <p>第8回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合</p> <p>第9回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第10回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第11回 読書活動1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第12回 読書活動2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第13回 読書活動3：パネルシアター、紙芝居</p> <p>第14回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第15回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>				
授業外学習 (予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。				
成績評価の方法	課題提出 (50%) と、授業第14回、15回での実演 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 146		担当者	竹本 寛秋	
	情報メディアの活用		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回リアクションペーパーに記入してもらい、その内容に毎回教員がコメントをつけて応答します。新聞報道などをグループでまとめ、発表してディスカッションを行う機会が1回あります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1回 情報社会の系譜 第 2回 情報検索の手法 第 3回 インターネットの系譜 第 4回 情報社会の進展と学習観の変遷 第 5回 学校情報化の変遷と現状 第 6回 情報社会と著作権 1：著作権の理解 第 7回 情報社会と著作権 2：著作権の制限 第 8回 情報社会と著作権 3：デジタル化の進行と著作権 第 9回 情報セキュリティ 第 10回 インターネットと情報検索、情報探索の技法 第 11回 情報探索の実践 第 12回 ICT を活用した授業 第 13回 ネットワーク運用 第 14回 演習 1：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション 第 15回 演習 2：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。				
成績評価の方法	授業での課題（60%）、期末試験（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 147			担当者	川畑 和明
	書道 I			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の学習</p> <p>【概要】書道は、文字を素材とする芸術である。本講座では、まず書体の変遷について概要を学ぶとともに、中学校の書写教育の概観を捉える。そして、中学校書写の楷書・行書の教材を練習し、その執筆法を習得することにより、書写学習の基礎を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の書き方を習得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊・中学国語科書写教科書 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 書について（書体の特徴とその変遷）、中学校における書写教育 第 2回 楷書の特徴とその書法（基本点画1） 第 3回 楷書の特徴とその書法（基本点画2） 第 4回 楷書作品制作 第 5回 楷書に調和する仮名 第 6回 楷書と仮名の調和 第 7回 楷書（硬筆） 第 8回 行書の特徴とその書法 第 9回 行書の特徴とその書法 第 10回 行書作品制作 第 11回 行書に調和する仮名 第 12回 行書と仮名の調和 第 13回 行書（硬筆） 第 14回 作品制作 第 15回 作品制作、学習のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 148			担当者	川畑 和明
	書道Ⅱ			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書・仮名の古典学習</p> <p>【概要】中学校書写の楷書・行書の教材と関連しながら、楷書・行書・仮名の古典学習を通して、それぞれの筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の楷書・行書の書き方を、古典学習を通し深める。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 中学校における書写教育 第 2回 楷書の古典（基本点画） 第 3回 楷書の古典（九成宮醜泉銘・孔子廟堂碑） 第 4回 楷書の古典（雁塔聖教序・顔氏家廟碑） 第 5回 楷書の古典（造像記） 第 6回 行書の古典（基本点画） 第 7回 行書の古典（蘭亭序） 第 8回 行書の古典（争坐位文稿他） 第 9回 行書の古典（蜀素帖他） 第 10回 仮名の書（いろは単体） 第 11回 仮名の書（連綿） 第 12回 仮名の書（高野切） 第 13回 仮名の書（三色紙） 第 14回 作品制作 第 15回 作品制作，学習のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 149			担当者	川畑 和明
	書道Ⅲ			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】草書・隸書・篆書の古典学習</p> <p>【概要】漢字の書には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の5つの書体がある。書道Ⅰ・Ⅱで日常生活において多用される楷書と行書を学習した。書道Ⅲでは、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、書の幅広い技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】書道Ⅰ・Ⅱの楷書・行書学習の発展として、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、それぞれの筆法を習得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 草書の特徴とその書法 第 2回 草書の古典（書譜） 第 3回 草書の古典（十七帖） 第 4回 草書の古典（王鐸・傅山等） 第 5回 作品制作 第 6回 篆書の特徴とその書法 第 7回 篆書の古典（泰山刻石） 第 8回 篆書の古典（甲骨文・金文） 第 9回 篆書の古典（帛書・木簡） 第 10回 隸書の特徴とその書法 第 11回 隸書の古典（曹全碑・礼器碑） 第 12回 隸書の古典（古隸） 第 13回 隸書の古典（木簡） 第 14回 作品制作 第 15回 作品制作，学習のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

授業科目	授業番号： 150			担当者	川畑 和明
	書道Ⅳ			授業外対応	授業終了後に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】書作品制作</p> <p>【概要】書道学習の集大成として、書作品制作にチャレンジする。漢字作品、仮名作品、漢字仮名交じり作品の制作を通して書の楽しさと魅力を味わうことを目的とする。また、自分の名を刻した印を制作し、作品に押印する。</p> <p>【到達目標】書作品の制作を通して、書への興味・関心を高め、その技法を習得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)				
授業 スケジュール	第 1回 作品制作の計画 第 2回 篆刻（自用印の制作） 第 3回 篆刻（自用印の制作） 第 4回 篆刻（自用印の制作） 第 5回 漢字作品制作 第 6回 漢字作品制作 第 7回 漢字作品制作 第 8回 漢字作品制作 第 9回 仮名作品制作 第 10回 仮名作品制作 第 11回 仮名作品制作 第 12回 仮名作品制作 第 13回 漢字仮名交じり作品制作 第 14回 漢字仮名交じり作品制作 第 15回 漢字仮名交じり作品制作、学習のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

授業科目	授業番号： 151			担当者	遠峯 伸一郎
	English Skills A			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平易な英語のリーディングを通して、英語学を概観する。</p> <p>【概要】英語の文章を文法的に正しく読み取ることによって、英語学がどのような目標を持って、何を調査するものであるかを学ぶ。</p> <p>【到達目標】英文の正しい読解に必要な基礎的文法を確認し、英語学が何であるのかを理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	予習成果について受講者間で情報交換と討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Naoyuki, Akaso et al. (2013) Twenty-Six Short Essays on English, Eihosha.</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 Chapter 1</p> <p>第 3回 Chapter 2</p> <p>第 4回 Chapter 3</p> <p>第 5回 Chapter 4</p> <p>第 6回 Chapter 5</p> <p>第 7回 Chapter 6</p> <p>第 8回 Chapter 7</p> <p>第 9回 Chapter 8</p> <p>第 10回 Chapter 10</p> <p>第 11回 Chapter 11</p> <p>第 12回 Chapter 12</p> <p>第 13回 Chapter 13</p> <p>第 14回 Chapter 14</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 1 時間二条必要である。				
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 152			担当者	野田 ゆり子
	English Skills B			授業外対応	授業前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原書で物語を楽しむ</p> <p>【概要】本授業では、J. K. ローリングによるファンタジー『ハリー・ポッターと賢者の石 (Harry Potter and the Philosopher's Stone)』を英語で読解していきます。要約・和訳などの読解問題を随時配布し、学校小説やファンタジーというジャンル、イギリスの階級などについて適宜紹介し、原文で物語を理解する力と、読解を深めるための知識を養います。(学生の達成度に合わせて、シラバスの進行度を調整する可能性があります。) また、自分で英語の本を選んで読み、紹介するためのプレゼンテーションも行う予定です。</p> <p>【到達目標】洋書を読破できる英語力を身につける。海外の作品に親しむための背景知識を獲得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	予習内容(要約問題)を踏まえた上で、授業内ではグループで問題に取り組んでももらいます。また、自分で一冊本を読んで紹介するプレゼンテーションも行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Rowling, J. K. Harry Potter and the Philosopher's Stone. Bloomsbury, 2000. 望月正道監修『Database 4800』桐原書店</p> <p>(2) ローリング、J. K. 『ハリー・ポッターと賢者の石』静山社、2019年。 板倉巖一郎『大学で読むハリー・ポッター』松柏社、2012年。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス (J. K. ローリングと『ハリー・ポッター』シリーズの紹介、図書館で多読本探し)</p> <p>第 2回 映画鑑賞『ハリー・ポッターと賢者の石』(前半)</p> <p>第 3回 映画鑑賞『ハリー・ポッターと賢者の石』(後半)</p> <p>第 4回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 1,2</p> <p>第 5回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 3,4</p> <p>第 6回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 5,6</p> <p>第 7回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 7,8</p> <p>第 8回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 9,10</p> <p>第 9回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 11,12</p> <p>第 10回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 13,14</p> <p>第 11回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 15,16</p> <p>第 12回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 17, Discussion</p> <p>第 13回 Discussion</p> <p>第 14回 Presentation Preparation</p> <p>第 15回 Final Presentation</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：毎回の授業までにテキストを読み、予習プリント(要約問題)に取り組む。小テスト対策。自分で選んだ本を読む。 復習：授業内で分からなかった和訳については、適宜復習しておく。				
成績評価の方法	毎授業の提出課題が 40%、プレゼンテーションが 30%、小テストが 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 153		担当者	石井 英里子
	English Skills C		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
	1年	前期	2単位	必修
				[授業形態]
				講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語で学ぶ日米文化比較</p> <p>【概要】 この授業では、大学生生活、家族、食文化、多文化社会など、様々なトピックについて日米文化を比較しながら、論理的で明晰な英語の説明文を丁寧に読み解き、英語の読解力を向上させます。文法や語彙、文の構造を詳しく学び、正確な日本語訳ができるようになることを目指します。</p> <p>【到達目標】 英文の構造を理解し、正確に日本語訳ができる。日米文化の比較を通じて異文化理解を深める。文脈に応じた適切な語彙や表現を習得する。</p>			
学生の主体的・対話的な学び	2～3名のグループで各章のトピックについてディスカッションを行い、日米文化の違いに関する気づきを共有します。Google フォームで質問を募集し、次回授業で解説することで双方向的な学びを促進します。最終回では、学んだ文化比較の視点を活かして、グループでディスカッションを行います。			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Charlebois, J. &amp; Sakuma, S. (2015). Cultural Portraits: Japan and the US. Kinseido.</p> <p>(2) Delk, L.C. (2008). Discovering American Culture. 2nd Edition. University of Michigan Press.</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2回 College Life : 日米の学生生活の違いを読む</p> <p>第 3回 Family : 文化による家族観の違いを理解する</p> <p>第 4回 Food Culture : 食習慣から見る文化の違い</p> <p>第 5回 Holidays : なぜ祝日が異なるのか?</p> <p>第 6回 Individualism : 文化的価値観を読み解く</p> <p>第 7回 Socializing at Parties : 日本とアメリカの違い</p> <p>第 8回 Dating and Romance : デート文化を比較する</p> <p>第 9回 Pluralistic Society : 異なる価値観の共存を考える</p> <p>第 10回 Degree of Formality : 場面に応じた言葉遣い</p> <p>第 11回 Volunteerism : 社会貢献への考え方の違い</p> <p>第 12回 Context and Communication : 言葉の背景を知る</p> <p>第 13回 Non-Verbal Communication : ジェスチャーの違いを理解する</p> <p>第 14回 Religion : 信仰の違いが生活に与える影響</p> <p>第 15回 まとめとディスカッション : 学んだことを振り返る</p>			
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	小テスト 30% , リーディング課題 30%, 授業内ディスカッション・発表 20%, レポート課題 20%			
実務経験について	なし			

授業科目	授業番号： 154			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	オーラルコミュニケーションⅠ			授業外対応	Office Hours.
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 In this course you will improve your English Communication Skills.</p> <p>【概要】 In this class, various topics will be presented for students to discuss and express their ideas and opinions about them, always in pairs. In addition, each topic will include specific vocabulary, expressions and communication techniques that the students will learn. There will also be communicative activities using multimedia materials such as videos and music. Also through short presentations/conversations with the teacher they will be able to improve their communicative skills in English.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is for students to acquire the necessary communication skills to improve their ability to express their ideas in English as naturally, confidently and logically as possible.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Antonia Clare, JJ Wilson 『Speakout. A2 3rd Edition』, Pearson.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Antonia Clare, JJ Wilson 『Speakout. A2 3rd Edition』, Pearson. (2) なし				
授業 スケジュール	第1回 Course explanation. Introduction activity: Why do you want to Speak in English? 第2回 Unit 1: Speaking. Talking about the people around you. Grammar review: past simple. 第3回 Unit 1: Communication Skills. Stressed verbs and pronunciation of (-ed) verbs. 第4回 Unit 1: Short Conversation. Tell a funny anecdote experienced with a friend or a family member. 第5回 Unit 2: Speaking: It's a world full of jobs. Grammar review: present simple and continuous. 第6回 Unit 2: Communication Skills. Intonation; express likes and dislikes. 第7回 Unit 2: Short Conversation. Your dreamed job. 第8回 Unit 3: Speaking. Food and recipes (vocabulary and expressions) 第9回 Unit 3: Communication Skills. How to present a recipe. 第10回 Unit 3. Short Conversation. Present your recipe. 第11回 Unit 4. Speaking. What do we do in our free time? Grammar review: present continuous and "be going to" future. 第12回 Unit 4. Short Conversation. Explain what you do on a Holiday. 第13回 Unit 5. Speaking. Our Story. Amazing or curious experiences. Grammar review: past simple and past continuous. 第14回 Unit 5. Communication Skills. Intonation of questions; stressed syllables. 第15回 Unit 5. Short Conversation. The best day of your life. 第16回 Unit 6. Speaking. What do you prefer, city or countryside? 第17回 Unit 6. Communication Skills: agreement and disagreement; intonation to express certainty and uncertainty. 第18回 Unit 6. Short Conversation. Explain the good points and bad points of living in Kagoshima. 第19回 Unit 7: Speaking. Music. Additional learning: Collocations and prepositions related to this topic. 第20回 Unit 7: Communication Skills: Pronunciation and rhythm in complex words and sentences. 第21回 Unit 7: Short conversation. Your favorite musical artist. 第22回 Unit 8: Speaking. Talking about Popular culture characters and books, comics, movies, TV shows and video games. 第23回 Unit 8: Communication Skills. Intonation for polite expressions and contrastive stress. 第24回 Unit 8. Short Conversation. Your favorite book/comic/Movie/TV Show/video-game. 第25回 Unit 9. Speaking. A global world with cultural differences. 第26回 Unit 9. Grammar review. The conditionals. Communication Skills. Intonation when making requests. 第27回 Unit 9. Short Conversation. Try to explain a foreigner some important aspects of Japanese culture. 第28回 Special Activity. Viewing of the animated short film The Wonderful Summer of Mickey Mouse. Comments on the film. 第29回 Review of the Course and preparation for the final short Conversation. 第30回 Final Short Conversation. Free topic.				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class short conversations 60%; Final short conversation 40%				
実務経験について	I've been teaching this class since 2019.				

授業科目	授業番号： 155		担当者	ジェイムズ・マレー	
	オーラルコミュニケーション I		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。</p> <p>【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。</p> <p>【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ること。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Breakthrough Plus 2 (2nd Edition)</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習</p> <p>第 2回 Unit 1: Video Translation 通訳練習</p> <p>第 3回 Unit 1: New Vocabulary 新しい単語</p> <p>第 4回 Unit 1: Listening Challenge 聞き取る練習</p> <p>第 5回 Unit 1: Interview インタビュー</p> <p>第 6回 Debate #1 Preparation 討論の準備</p> <p>第 7回 Debate #1 討論</p> <p>第 8回 Unit 2: Video Translation 通訳練習</p> <p>第 9回 Unit 2: New Vocabulary 新しい単語</p> <p>第 10回 Unit 2: Listening Challenge 聞き取る練習</p> <p>第 11回 Unit 2: Roleplay Activity ロールプレイ</p> <p>第 12回 Debate #2 Preparation 討論の準備</p> <p>第 13回 Debate #2 討論</p> <p>第 14回 Unit 3: Video Translation 通訳練習</p> <p>第 15回 Unit 3: New Vocabulary 新しい単語</p> <p>第 16回 Unit 3: Listening Challenge 聞き取る練習</p> <p>第 17回 Unit 3: Interview インタビュー</p> <p>第 18回 Presentation #1 Preparation プレゼンテーションの準備</p> <p>第 19回 Presentation #1 プレゼンテーション</p> <p>第 20回 Unit 4: Video Translation 通訳練習</p> <p>第 21回 Unit 4: New Vocabulary 新しい単語</p> <p>第 22回 Unit 4: Listening Challenge 聞き取る練習</p> <p>第 23回 Unit 4: Roleplay Activity ロールプレイ</p> <p>第 24回 Presentation #2 Preparation プレゼンテーションの準備</p> <p>第 25回 Presentation #2 プレゼンテーション</p> <p>第 26回 Unit 5: Video Translation 通訳練習</p> <p>第 27回 Unit 5: New Vocabulary 新しい単語</p> <p>第 28回 Unit 5: Listening Challenge 聞き取る練習</p> <p>第 29回 Unit 5: Interview インタビュー</p> <p>第 30回 Review まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework 25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 156			担当者	ニコライ・ギュレメトヴ
	オーラルコミュニケーション I			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる          Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。          We will do short speeches, group and pair discussions and speaking practice.</p> <p>【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.          テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman          (2) プリントを配布する場合があります。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 Orientation &amp; class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule)          第 2回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small?          第 3回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion          第 4回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead          第 5回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for?          第 6回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion          第 7回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father          第 8回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships          第 9回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs          第 10回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion          第 11回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie          第 12回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets          第 13回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One          第 14回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion          第 15回 Unit 20 A Mother's Story / Final revision</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) +発表・スピーチ (期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 157			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	オーラルコミュニケーションⅡ			授業外対応	Office Hours.
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 In this course you will further improve your English Communication Skills.</p> <p>【概要】 In this class, various topics will be presented for students to discuss and express their ideas and opinions about them, always in pairs. In addition, each topic will include specific vocabulary, expressions and communication techniques that the students will learn. There will also be communicative activities using multimedia materials such as videos and music. Also through short presentations/conversations with the teacher they will be able to improve their communicative skills in English.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is for students to acquire the necessary communication skills to improve their ability to express their ideas in English as naturally, confidently and logically as possible.</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson 『Speakout. B1 3rd Edition』 Pearson.</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 Course explanation. Introduction activity: Why do you want to be able to communicate in English?</p> <p>第 2回 Unit 1: Speaking. Discussing about recent news. Grammar review. Past simple and present perfect.</p> <p>第 3回 Unit 1: Communication Skills. Differences between verbs tell and say; pronunciation of have, had and was; intonation to sound interesting.</p> <p>第 4回 Unit 1: Short Conversation. Interesting news.</p> <p>第 5回 Unit 2: Speaking: It's a technological and scientific world . Grammar review. simple future.</p> <p>第 6回 Unit 2: Communication Skills. Time idioms; fast speech (gonna); linking in connected speech.</p> <p>第 7回 Unit 2: Short Conversation. Advantages and disadvantages of technological devices.</p> <p>第 8回 Unit 3: Speaking. Amazing jobs. Grammar review. Obligation modal verbs, simple conditional and used to.</p> <p>第 9回 Unit 3: Communication Skills. Intonation to show emphasis; fast speech (have to); sentence stress.</p> <p>第10回 Unit 3. Short Conversation. An amazing job.</p> <p>第11回 Unit 4. Speaking. Emotions and feelings. Grammar review. Real and hypothetical conditionals.</p> <p>第12回 Unit 4. Communication Skills. Weak forms (pronouns); connected speech (would); intonation for giving bad news.</p> <p>第13回 Unit 4. Short Conversation. Talk about an important event in your life and how you feel about it.</p> <p>第14回 Unit 5. Speaking. What is necessary to achieve success? Grammar review. Present perfect vs present continuous.</p> <p>第15回 Unit 5. Communication Skills. Talking about present and past abilities; clarifying opinions; word stress; contractions.</p> <p>第16回 Unit 5. Short Conversation. Talk about the greatest achievement you did so far.</p> <p>第17回 Unit 6. Speaking. When was life better, now or in the past? Grammar review. Passive voice.</p> <p>第18回 Communications skills. Vocabulary to talk about historical events; collocations for periods of time; pausing for effect.</p> <p>第19回 Unit 6. Short Conversation. Explain your favorite historical event.</p> <p>第20回 Unit 7: Speaking. Discussion about the problems the world us facing today. Grammar review. Reported speech.</p> <p>第21回 Unit 7: Communication Skills: vocabulary related to the environment; prefixes.</p> <p>第22回 Unit 7: Short conversation. Solutions to the world problems</p> <p>第23回 Unit 8: Speaking. Pop Culture. Grammar review. Relative clauses and quantifiers.</p> <p>第24回 Unit 8: Communication Skills. Verb phrases; stress pattern in short phrases.</p> <p>第25回 Unit 8. Short Conversation. Your favorite pop culture character.</p> <p>第26回 Unit 9. Speaking. Discussion about fame. Grammar review. Comparatives and superlatives.</p> <p>第27回 Unit 9. Communication Skills. Syllable stress; intonation for questions tags and polite requests.</p> <p>第28回 Unit 9. Short Conversation. The cost of fame.</p> <p>第29回 Special Activity. Viewing of the animated short film The Wonderful Winter of Mickey Mouse. Comments on the film.</p> <p>第30回 Final Short Conversation. Free Topic.</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class short conversations 60%; Final short conversation 40%				
実務経験について	I've been teaching this class since 2019.				

授業科目	授業番号： 158		担当者	ジェイムズ・マレー	
	オーラルコミュニケーションⅡ		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。</p> <p>【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。</p> <p>【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ること。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Breakthrough Plus 2 (2nd Edition) (2) なし				
授業スケジュール	第 1回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習 第 2回 Unit 7: Video Translation 通訳練習 第 3回 Unit 7: New Vocabulary 新しい単語 第 4回 Unit 7: Listening Challenge 聞き取る練習 第 5回 Unit 7: Interview インタビュー 第 6回 Debate #1 Preparation 討論の準備 第 7回 Debate #1 討論 第 8回 Unit 8: Video Translation 通訳練習 第 9回 Unit 8: New Vocabulary 新しい単語 第 10回 Unit 8: Listening Challenge 聞き取る練習 第 11回 Unit 8: Roleplay Activity ロールプレイ 第 12回 Debate #2 Preparation 討論の準備 第 13回 Debate #2 討論 第 14回 Unit 9: Video Translation 通訳練習 第 15回 Unit 9: New Vocabulary 新しい単語 第 16回 Unit 9: Listening Challenge 聞き取る練習 第 17回 Unit 9: Interview インタビュー 第 18回 Presentation #1 Preparation プレゼンテーションの準備 第 19回 Presentation #1 プレゼンテーション 第 20回 Unit 10: Video Translation 通訳練習 第 21回 Unit 10: New Vocabulary 新しい単語 第 22回 Unit 10: Listening Challenge 聞き取る練習 第 23回 Unit 10: Roleplay Activity ロールプレイ 第 24回 Presentation #2 Preparation プレゼンテーションの準備 第 25回 Presentation #2 プレゼンテーション 第 26回 Unit 11: Video Translation 通訳練習 第 27回 Unit 11: New Vocabulary 新しい単語 第 28回 Unit 11: Listening Challenge 聞き取る練習 第 29回 Unit 11: Interview インタビュー 第 30回 Review まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework 25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 159			担当者	ニコライ・ギュレメトヴ
	オーラルコミュニケーションⅡ			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる          Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。          We will do short speeches, group and pair discussions and speaking practice.</p> <p>【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.          テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman</p> <p>(2) プリントを配布する場合があります。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 Orientation &amp; class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule)</p> <p>第 2回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small?</p> <p>第 3回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion</p> <p>第 4回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead</p> <p>第 5回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for?</p> <p>第 6回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion</p> <p>第 7回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father</p> <p>第 8回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships</p> <p>第 9回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs</p> <p>第 10回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion</p> <p>第 11回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie</p> <p>第 12回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets</p> <p>第 13回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One</p> <p>第 14回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion</p> <p>第 15回 Unit 20 A Mother's Story / Final revision</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) +発表・スピーチ (期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 160			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	オーラルコミュニケーションⅢ			授業外対応	Office Hours.
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 In this course you will even further improve your English Communication Skills.</p> <p>【概要】 Through questions raised in class related to each topic of the course, students will acquire the ability to identify how American cultural values are represented in different forms of popular culture</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is for students to acquire the necessary communication skills to improve their ability to express their ideas in English as naturally, confidently and logically as possible.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions and other activities such as games for learning vocabulary and expressions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson 『Speakout. B2 3rd Edition』 Pearson.</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 Course explanation. Self-introductions.</p> <p>第 2回 Unit 1: Speaking. Discussing about fears and phobias. Grammar review. Making suggestions.</p> <p>第 3回 Unit 1: Communication Skills. Stress patterns when responding; verb + preposition constructions.</p> <p>第 4回 Unit 1: Short Conversation. Scary stories.</p> <p>第 5回 Unit 2: Speaking: Your life style. Grammar review. Passive and causative have.</p> <p>第 6回 Unit 2: Communication Skills. Everyday object vocabulary; stress for causative have; linking in connected speech.</p> <p>第 7回 Unit 2: Short Conversation. Your good and bad habits.</p> <p>第 8回 Unit 3: Speaking. Discussing about health. Grammar review. Passive reporting structures</p> <p>第 9回 Unit 3: Communication Skills. Health vocabulary; disagreeing politely.</p> <p>第 10回 Unit 3. Short Conversation. Healthy advices.</p> <p>第 11回 Unit 4. Speaking. Discussing about the necessity or not of having a smart phone Grammar review. Indirect questions; present perfect simple and continuous.</p> <p>第 12回 Unit 4. Communication Skills. Intonation for stamen questions; intonation when sounding enthusiastic.</p> <p>第 13回 Unit 4. Short Conversation. Anecdote about using your smartphone.</p> <p>第 14回 Special activity. Viewing of a movie. Commenting on the movie.</p> <p>第 15回 Final Short presentation.</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	In-class short conversations 60%; Final short conversation 40%				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				

授業科目	授業番号： 161			担当者	ジェイムズ・マレー
	オーラルコミュニケーションⅢ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。</p> <p>【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。</p> <p>【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ること。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Group discussions, pair work, debates, presentations, and activities to promote free dialogue. グループディスカッション、ペアワーク、討論、プレゼンテーション、自由な対話を促進する活動などが行われます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Breakthrough Plus 3 (2nd Edition) (2) なし				
授業スケジュール	第 1回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習 第 2回 Speaking: Talking about People, Places, and Things 世間話 第 3回 Pronunciation: Intonation. / Listening: Listen for Details. 詳細に耳を傾ける 第 4回 Debate (1) Preparation 討論の準備 第 5回 Debate (1) / Conversation Practice 討論 第 6回 Speaking: Talking about Experiences 経験について話す 第 7回 Pronunciation: Expressing Emotion 感情を表現する. Listening: News Reports ニュース報道 第 8回 Conversation Practice 会話の練習 第 9回 Presentation (1) Preparation プレゼンテーションの準備 第 10回 Presentation (1) / Conversation Practice プレゼンテーション 第 11回 Speaking: Talking about Opinions 意見について話す 第 12回 Pronunciation: -ed endings. / Listening: Identifying the Topic 話題を特定する 第 13回 Presentation (2) Preparation プレゼンテーションの準備 第 14回 Presentation (2) / Conversation Practice プレゼンテーション 第 15回 Review まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework 25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 162			担当者	ジョン・トレマーコ
	オーラルコミュニケーションⅢ			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. Initially, they will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation. In addition to this, they will be given guidance that will encourage and allow them to take part in debates and presentations.</p> <p>【到達目標】 To improve students' communication skills.</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Bridging Communication Skills: Author(s): S. Suzuki, M. Miller & P. McClue Publisher: Kinseido (2)				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第 2回 Unit 1: Getting to know your classmates</p> <p>第 3回 Unit 2: Memories and Experiences</p> <p>第 4回 Unit 3: Food and Cooking</p> <p>第 5回 Unit 4: Health</p> <p>第 6回 Unit 5: Humans and Animals</p> <p>第 7回 Unit 6: Telling Stories</p> <p>第 8回 Unit 7: Review</p> <p>第 9回 Unit 8: Emotions?</p> <p>第10回 Unit 9: Talking About the Summer Holidays</p> <p>第11回 Unit 10: Intelligence</p> <p>第12回 Unit 11: Superstitions</p> <p>第13回 Unit 12: Comparing Cultures</p> <p>第14回 Unit 13: Apologies!</p> <p>第15回 Unit 14: Communication &amp; Future Plans</p> <p>第16回 Test &amp; Review</p> <p>The pace and range of progress will very much depend on the characteristics of the class.</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 163			担当者	ジェイムズ・マレー
	オーラルコミュニケーションⅢ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。</p> <p>【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。</p> <p>【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ること。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Group discussions, pair work, debates, presentations, and activities to promote free dialogue. グループディスカッション、ペアワーク、討論、プレゼンテーション、自由な対話を促進する活動などが行われます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Breakthrough Plus 3 (2nd Edition) (2) なし				
授業スケジュール	第 1回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習 第 2回 Speaking: Talking about People, Places, and Things 世間話 第 3回 Pronunciation: Intonation. / Listening: Listen for Details. 詳細に耳を傾ける 第 4回 Debate (1) Preparation 討論の準備 第 5回 Debate (1) / Conversation Practice 討論 第 6回 Speaking: Talking about Experiences 経験について話す 第 7回 Pronunciation: Expressing Emotion 感情を表現する. Listening: News Reports ニュース報道 第 8回 Conversation Practice 会話の練習 第 9回 Presentation (1) Preparation プレゼンテーションの準備 第 10回 Presentation (1) / Conversation Practice プレゼンテーション 第 11回 Speaking: Talking about Opinions 意見について話す 第 12回 Pronunciation: -ed endings. / Listening: Identifying the Topic 話題を特定する 第 13回 Presentation (2) Preparation プレゼンテーションの準備 第 14回 Presentation (2) / Conversation Practice プレゼンテーション 第 15回 Review まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework 25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 164			担当者	ジェイムズ・マレー
	オーラルコミュニケーションⅣ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。</p> <p>【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。</p> <p>【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ること。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Group discussions, pair work, debates, presentations, and activities to promote free dialogue. グループディスカッション、ペアワーク、討論、プレゼンテーション、自由な対話を促進する活動などが行われます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Breakthrough Plus 3 (2nd Edition) (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習 第 2回 Speaking: Talking about Possibilities 可能かどうか 第 3回 Pronunciation: Linking "Would you" / Listening: Listen for Opinion 意見 第 4回 Debate (1) Preparation 討論の準備 第 5回 Debate (1) 討論 第 6回 Wish Vs Hope 願い事の使い分け 第 7回 Pronunciation: Reduced Forms 略語 / Listening: Inferring Meaning 曖昧な意味 第 8回 Speaking: Talking about Key Events from the Past 歴史についての話 第 9回 Presentation (1) Preparation プレゼンテーションの準備 第 10回 Presentation (1) プレゼンテーション 第 11回 Pronunciation: Stress and Rhythm イントネーション 第 12回 Listening: Listen for Specific Information 特定の情報に注意して聞く 第 13回 Presentation (2) Preparation プレゼンテーションの準備 第 14回 Presentation (2) プレゼンテーション 第 15回 Review まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 165			担当者	パトリックゴース
	オーラルコミュニケーションⅣ			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The goal is to familiarize students with cultural and news events in the world, but with a focus mainly on the United States.</p> <p>【概要】 Class time will be spent watching and listening to news stories. Students will then complete information gap exercises, cloze exercises and information exchange on topics presented in the textbook and current events in Japan and the world.</p> <p>【到達目標】 The goal of the course is for students to improve their overall listening and speaking fluency while becoming more aware of the world outside of Japan.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ABC NEWSROOM 2, Shigeru & Kathleen Yamane, Kinseido, ISBN978-4-7647-4190-4				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) Honoring Earth Day				
授業スケジュール	第 1回 Student Loan Showdown 第 2回 Celebrating as American Citizens 第 3回 New Zealand Warning on Climate 第 4回 Students Help 80-Year-Old Janitor 第 5回 Biden Signs Marriage Law 第 6回 David's Toy Project 第 7回 Safe Drinking Water 第 8回 Students Create Prosthesis for Dog 第 9回 Inside ChatGPT Technology 第 10回 Sister Jean, the Beloved Chaplin 第 11回 Paralyzed Man Walks Again 第 12回 Drilling Project in Alaska 第 13回 Fury in France 第 14回 Increased Outreach in East Palestine 第 15回 Review previous week's material and complete any given homework assignments.				
授業外学習 (予習・復習)	Participation 10%, Vocabulary notebook 20%, Speech/Presentation 20%, Final exam 50%				
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 166		担当者	ジェイムズ・マレー	
	英語表現法 I		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Practice sentence and paragraph structure. 適切な文と段落の構成を書く練習をします。</p> <p>【概要】 Students will learn grammar and writing styles to express their ideas. There is group work, followed by writing compositions by on their own. 学生たちは自分の考えを表現するための文法と文章スタイルを学びます。グループワークを行った後、各自で作文を書きます。</p> <p>【到達目標】 Organize and express ideas, and learn through correction. 考えを整理し、考えを表現し、修正を通じて学ぶ。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Students will do group activities, do weekly homework, and rewrite mistaken sentences. 学生たちはグループ活動を行い、毎週の宿題を提出し、間違った文を書き直します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Writing From Within 1</p> <p>(2) なじ</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Introduction and Writing Practice</p> <p>第 2回 Unit 1: Main Ideas / General and Specific Information</p> <p>第 3回 Unit 1: Topic Sentences</p> <p>第 4回 Unit 2: Organizing Ideas</p> <p>第 5回 Unit 2: Inference Sentences</p> <p>第 6回 Unit 3: Facts and Examples in Paragraphs</p> <p>第 7回 Unit 3: Supporting Sentences / Direct and Indirect Speech</p> <p>第 8回 Unit 4: Descriptive Paragraphs</p> <p>第 9回 Unit 4: Getting Reader's Attention / Pronouns to Avoid Repetition</p> <p>第 10回 Unit 5: Topic Sentences</p> <p>第 11回 Unit 5: Organizing Information</p> <p>第 12回 Unit 6: Plans and Instructions</p> <p>第 13回 Unit 6: Using "so", "that", and "to"</p> <p>第 14回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment</p> <p>第 15回 Submission of Final Writing Assignment</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Weekly Homework, 毎週の宿題 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 167			担当者	パトリックゴース
	英語表現法 I			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Eigo Hyogen Ho I is a writing course in which students will write paragraph essays.</p> <p>【概要】Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Press				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) Class Orientation				
授業 スケジュール	第 1回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 2回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 3回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 4回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 5回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 6回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 7回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 8回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 9回 Unit 3, Example paragraph 第 10回 Unit 3, Example paragraph 第 11回 Unit 3, Example paragraph 第 12回 Unit 3, Example paragraph 第 13回 Example paragraph in-class assignment 1st draft 第 14回 Example paragraph in-class assignment 2nd draft 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)	Student essays 80%, freewriting 10%, attendance 10%				
成績評価の方法					
実務経験(について)					

授業科目	授業番号： 168			担当者	ジェイムズ・マレー
	英語表現法Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Practice sentence and paragraph structure. 適切な文と段落の構成を書く練習をします。</p> <p>【概要】 Students will learn grammar and writing styles to express their ideas. There is group work, followed by writing compositions by on their own. 学生たちは自分の考えを表現するための文法と文章スタイルを学びます。グループワークを行った後、各自で作文を書きます。</p> <p>【到達目標】 Organize and express ideas, and learn through correction. 考えを整理し、考えを表現し、修正を通じて学ぶ。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Students will do group activities, do weekly homework, and rewrite mistaken sentences. 学生たちはグループ活動を行い、毎週の宿題を提出し、間違った文を書き直します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Writing From Within 1 (2) なじ				
授業 スケジュール	第 1回 Introduction and Writing Practice 第 2回 Unit 7: Time Markers: "before", "while" and "after" / Giving Reasons 第 3回 Unit 7: Thank You Notes / Concluding Paragraphs / Use of Commas 第 4回 Unit 8: Compare and Contrast Paragraphs 第 5回 Unit 8: Using Pronouns 第 6回 Unit 9: Persuasive Paragraphs / Sentence Transitions 第 7回 Unit 9: Supporting Sentences 第 8回 Unit 10: Using Examples 第 9回 Unit 10: Writing About Wishes / "If I could __, I would __." 第 10回 Unit 11: Attention-Getters 第 11回 Unit 11: Using Persuasive Language 第 12回 Unit 12: Writing Explanations / Conclusions 第 13回 Unit 12: Writing Cards / Word Choice 第 14回 Unit 7-12 Review / Final Writing Assignment 第 15回 Submission of Final Writing Assignment				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Weekly Homework, 毎週の宿題 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 169			担当者	パトリックゴース
	英語表現法Ⅱ			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Eigo Hyogen Ho II students will write process, narrative and opinion paragraphs.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express				
(1)テキスト	(1)				
(2)参考文献	(2) Unit 4, Process paragraph				
授業スケジュール	第 1回 Unit 4, Process paragraph 第 2回 Unit 4, Process paragraph 第 3回 Process paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 4回 Process paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 5回 Unit 5, Opinion paragraph 第 6回 Unit 5, Opinion paragraph 第 7回 Unit 5, Opinion paragraph 第 8回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 9回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 10回 Unit 6, Narrative paragraph 第 11回 Unit 6, Narrative paragraph 第 12回 Unit 6, Narrative paragraph 第 13回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 14回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)	Student essays 75%, freewriting 10% and attendance 10%				
成績評価の方法					
実務経験(について)					

授業科目	授業番号： 170		担当者	ジェイムズ・マレー	
	英語表現法Ⅲ		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Practice sentence and paragraph structure. 適切な文と段落の構成を書く練習をします。</p> <p>【概要】 Students will learn grammar and writing styles to express their ideas. There is group work, followed by writing compositions by on their own. 学生たちは自分の考えを表現するための文法と文章スタイルを学びます。グループワークを行った後、各自で作文を書きます。</p> <p>【到達目標】 Organize and express ideas, and learn through correction. 考えを整理し、考えを表現し、修正を通じて学ぶ。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Students will do group activities, do weekly homework, and rewrite mistaken sentences. 学生たちはグループ活動を行い、毎週の宿題を提出し、間違った文を書き直します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Writing From Within 2 (2) なじ				
授業スケジュール	第 1回 Introduction and Writing Practice 第 2回 Unit 1: "About Me" Expository Paragraphs 第 3回 Unit 1: Topic Sentences / Paragraph Format 第 4回 Unit 2: "Career Consultant" Supporting Logical Conclusions 第 5回 Unit 2: Conjunctions / Email requesting information 第 6回 Unit 3: "Dream Come True" Supporting Sentences 第 7回 Unit 3: Direct and Indirect Speech / Resumes, CVs 第 8回 Unit 4: "Invent" Definition Paragraphs 第 9回 Unit 4: Avoiding Repetition / Emailing Companies about a Product 第 10回 Unit 5: "Changed My Life" Cause and Effect Paragraphs 第 11回 Unit 5: Introductory Paragraphs / Greeting Cards 第 12回 Unit 6: Process Paragraphs 第 13回 Unit 6: Using Modifiers / Organizing Lists 第 14回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15回 Submission of Final Writing Assignment				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Weekly Homework, 毎週の宿題 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 171			担当者	遠峯 伸一郎
	英語表現法Ⅲ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 文法・語法的に適切であり、まとまりのある英文を書く訓練。</p> <p>【概要】 英語における句や文の組み立て規則を整理してから、段落の構築方法とテキストタイプに注意しながら英文を書く訓練を行う。</p> <p>【到達目標】 一つ一つの文を積み上げて、まとまりのある文章を完成できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	教科書、参考書等を用いて受講者の主導で問題演習を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石井洋佑 (2023)『ゼロから覚醒 はじめよう英作文』かんき出版, 東京。</p> <p>(2) 三森ゆりか (2003)『外国語を身につけるための日本語レッスン』大修館書店, 東京。／池上嘉彦 (2006)『英語の感覚・日本語の感覚 &lt;ことばの意味&gt;の仕組み』NHK 出版, 東京。／四軒家忍 (2019)『TOEFL テスト集中攻略ライティング』テイエス企画, 東京。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス, Stage 1</p> <p>第 2回 Stage 2</p> <p>第 3回 Stage 3</p> <p>第 4回 Stage 4</p> <p>第 5回 Stage 5(1)</p> <p>第 6回 Stage 5(2)</p> <p>第 7回 Stage 6(1)</p> <p>第 8回 Stage 6(2)</p> <p>第 9回 Stage 6(3)</p> <p>第 10回 Stage 6(4)</p> <p>第 11回 Stage 6(5)</p> <p>第 12回 総合演習(1)</p> <p>第 13回 総合演習(2)</p> <p>第 14回 総合演習(3)</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1時間以上, 復習 1時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) +試験 (80%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 172			担当者	石井 英里子
	英語コミュニケーション演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語活動に必要な文法の定着を図る。</p> <p>【概要】 この授業では、基礎英文法を体系的に学びます。解説と演習を通して文法理解と定着を図る。英検2級取得のためのリーディング・リスニング・ライティング・ポキャビルトレーニングも行います。</p> <p>【到達目標】 英文法の基礎を身につけ、滞りなく言語活動ができるようになる。英検2級合格レベルの英語力を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	文法項目について、ペアで例文を作成し合い、相互添削を行います。英検対策では、グループで模擬面接を実施し、フィードバックを交換します。小テスト後は、間違えた問題について説明し合うことで、文法理解を深めます。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Murphy, R. (著) 渡辺雅仁ほか (訳) (2021) 『マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編) 第4版』, ケンブリッジ大学出版局 旺文社 (編) (2026) 『英検2級 過去6回全問題集』 旺文社</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第2回 現在形</p> <p>第3回 過去形</p> <p>第4回 現在完了形</p> <p>第5回 受動態</p> <p>第6回 動詞の形</p> <p>第7回 未来表現</p> <p>第8回 法助動詞と命令文</p> <p>第9回 There と it</p> <p>第10回 助動詞</p> <p>第11回 疑問文</p> <p>第12回 間接話法</p> <p>第13回 「-ing」と「to+動詞の原形」</p> <p>第14回 Go, get, do, make, have (基本的な動詞を用いた表現)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業の取り組み 30%, 課題 20%, 小テスト 50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 173			担当者	野田 ゆり子
	英語コミュニケーション演習Ⅱ			授業外対応	授業前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英検 2 級対策</p> <p>【概要】本授業は、英検 2 級取得を目的としています。Listening と Reading 問題に繰り返し取り組み、単語テストで単語力を底上げし、Writing や Speaking 対策なども包括的に行うことで、英語の四技能 (Listening, Reading, Writing, Speaking) をバランスよく向上させていきます。個々の課題を発見し、その課題に向かって自発的に取り組む姿勢が求められます。</p> <p>【到達目標】英語の四技能 (Listening, Reading, Speaking, Writing) をバランスよく向上させ、英検 2 級レベルに到達する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、グループワークを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Hiromi Imamura et al. Path to Success (英検 2 級 サクセスパス) . Kinseido. Judith Nadell et al. Vocabulary Basics. Seibido.</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 Introduction: 英検 2 級ミニテスト (弱点の確認)</p> <p>第 2 回 Lesson1: Reading and Listening</p> <p>第 3 回 Lesson2: Reading and Listening</p> <p>第 4 回 Lesson3: Reading and Listening</p> <p>第 5 回 Lesson4: Reading and Listening</p> <p>第 6 回 Vocabulary Quiz1、Writing</p> <p>第 7 回 Lesson5: Reading and Listening</p> <p>第 8 回 Lesson6: Reading and Listening</p> <p>第 9 回 Lesson7: Reading and Listening</p> <p>第 10 回 Lesson8: Reading and Listening</p> <p>第 11 回 Vocabulary Quiz2、Writing</p> <p>第 12 回 英検 2 級模擬テスト (Reading and Listening)</p> <p>第 13 回 英検 2 級模擬テスト (Reading and Listening 答え合わせ、Writing)</p> <p>第 14 回 二次試験面接対策</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>予習：単語の勉強</p> <p>復習：授業で間違えた問題を見直しておく</p>				
成績評価の方法	授業参加 (授業での発言内容) が 20%、Vocabulary Quiz が 40%、復習テストが 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 174			担当者	石井 英里子
	TOEIC I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 TOEIC Part 5 (短文穴埋め問題) と Part 6 (文章穴埋め問題) の文法理解</p> <p>【概要】 この授業では、TOEIC テストの Part 5 と Part 6 の問題に焦点を当て、頻出する文法を順番に学習します。TOEIC の前提知識は不要です。</p> <p>【到達目標】 TOEIC テストの文法問題 (Part 5, Part 6) を 8 割以上正解することを目指し、TOEIC 600 点以上を達成する基礎力を習得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	各文法項目について、ペアで問題を解き合い、解答根拠を説明し合います。Part 5・6 の演習では、グループで誤答パターンを分析し、共通の弱点を特定します。スコア向上の経験をプレゼンテーション形式で共有することで、効果的な学習方法を学び合います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ETS (Educational Testing Service) (2020). 『公式 TOEIC Listening &amp; Reading プラクティス リーディング編』 国際ビジネスコミュニケーション協会</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 TOEIC IP TEST を実施し、受講者の現状のスコアを把握。講義内容の重要性と目的を説明する。</p> <p>第 2 回 TOEIC IP TEST を実施し、受講者の現状のスコアを把握。講義内容の重要性と目的を説明する。</p> <p>第 3 回 TOEIC 全体構成を学び、Part 5 の基本形式を説明。品詞の役割と文法基礎を復習する。</p> <p>第 4 回 名詞の単数・複数形、冠詞 (a, an, the) の基本的な用法を解説。頻出問題を解き、スキルを定着させる。</p> <p>第 5 回 現在・過去・未来の基本時制に加え、進行形・完了形を学ぶ。主語と動詞の一致を中心に問題演習を行う。</p> <p>第 6 回 形容詞と副詞の違いや修飾のルールを解説。TOEIC で頻出の修飾表現に注目して問題を解く。</p> <p>第 7 回 接続詞 (and, but, because など) と前置詞 (in, at, on など) の基本的な用法を学習し、演習問題を解く。</p> <p>第 8 回 助動詞 (can, may, must など) の使い方を学び、仮定法の基礎ルールを説明。TOEIC 頻出パターンの問題を解く。</p> <p>第 9 回 Part 6 の基礎と問題形式：Part 6 の文章穴埋め問題の基礎を学び、問題演習を行う。</p> <p>第 10 回 文脈を正確に読み取り、文全体の流れに沿った語句を選ぶ練習を行う。</p> <p>第 11 回 TOEIC 頻出語彙を中心に単語力を強化する。関連表現や派生語も学習し、語彙問題の正答率を向上させる。</p> <p>第 12 回 Part 6 の難易度の高い問題に挑戦し、解答スピードを上げる練習を行う。</p> <p>第 13 回 実践問題演習 1：模擬試験形式の演習で、時間配分と解答テクニックを確認する。</p> <p>第 14 回 実践問題演習 2：苦手分野を集中的に復習し、テスト本番に向けた準備を整える。</p> <p>第 15 回 TOEIC IP TEST を再実施し、事前テストとの比較分析を行う。個々の成果と課題を明確にし、今後の目標を設定する。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	TOEIC IP TEST スコア (50%) 演習問題・課題の提出状況 (30%) プレゼンテーション (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 175			担当者	石井 英里子
	TOEIC II			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 TOEIC Part 1, 2, 7 のリスニングとリーディングの実践力を身につける</p> <p>【概要】 この授業では、TOEIC の Part 1, Part 2, Part 7 の問題に焦点を当て、8割以上正解できるようになるためのストラテジー学習を中心に進めます。受講者は TOEIC I で学んだ文法知識を基礎に、リスニングとリーディングのスキルを高め、TOEIC テストに必要な戦略とテクニックを学びます。</p> <p>【到達目標】 Part 1 (写真描写問題)、Part 2 (応答問題)、Part 7 (読解問題)を中心に、実践的なスキルとストラテジーを習得する。TOEIC TEST で 600 点以上を目指す。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>ペアワークで弱点分析を行い、相互にフィードバックします。Part 別の演習では、解答プロセスを説明し合うことで理解を深めます。IP TEST 前後のスコア比較を基に、個別の学習計画を立て、クラスでシェアすることで、多様な学習ストラテジーを学び合います。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ETS (Educational Testing Service) (2023). 『公式 TOEIC® Listening &amp; Reading 650 +』 国際ビジネスコミュニケーション協会</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 前期の成果を確認するため、TOEIC IP TEST を実施。特に Part 1, 2, 7 の得点分布を分析し、個々の課題を特定する。</p> <p>第 2 回 TOEIC リスニングセクション全体を概観し、Part 1 における写真描写問題の形式や頻出語彙を学ぶ。</p> <p>第 3 回 人物や物の位置関係を正確に描写する練習を行い、正答率を上げるためのテクニックを学習する。</p> <p>第 4 回 Part 2 の問題形式を紹介し、よく使われる応答パターンやフレーズを学習。リスニング力向上を図る。</p> <p>第 5 回 聞き取りのスピードに慣れるための演習を行い、答えを選ぶ際の効率的な判断基準を身に付ける。</p> <p>第 6 回 TOEIC リーディングの全体像を把握し、Part 7 (読解問題) の形式や時間配分について学ぶ。</p> <p>第 7 回 読解問題に頻出するビジネス関連の単語や表現を学び、語彙力を強化する。</p> <p>第 8 回 短文と長文読解の特徴を分析し、それぞれに適した解答方法を学ぶ。練習問題を通じてスキルを向上させる。</p> <p>第 9 回 Part 1, 2 の過去問題を使用し、テスト形式で実践演習を行う。弱点を分析し、復習を行う。</p> <p>第 10 回 Part 7 の過去問題を使用し、時間を計りながら解く練習を行う。時間配分の重要性を学ぶ。</p> <p>第 11 回 各パートでの時間配分の目安と効率的な解答順序を学び、模擬試験を通して実践する。</p> <p>第 12 回 Part 7 で求められる推測力を養う演習を行い、難解な問題に対応できる力を付ける。</p> <p>第 13 回 実践問題演習 1 (総合演習) : 模擬試験を実施し、弱点を確認する。</p> <p>第 14 回 実践問題演習 2 (弱点克服) : 個々の弱点に焦点を当てた復習と補強を行う。</p> <p>第 15 回 TOEIC IP TEST を再度実施し、前期のスコアと比較分析。成果を実感し、さらなる目標設定を行う。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	TOEIC IP TEST スコア (50%) 演習問題・課題の提出状況 (30%) プレゼンテーション (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 176			担当者	野田 ゆり子
	TOEIC Ⅲ			授業外対応	授業前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 TOEIC 対策</p> <p>【概要】 本授業は、TOEIC の Part3 と Part7 の対策を中心に行います。学生が苦手とする問題形式を中心とした対策を行うことで、TOEIC スコア 600 点以上の取得を目指します。また、毎回単語テストを行うことによって、英語学習を習慣化できるようにします。学生一人一人が自分の課題を見つけ、主体的に取り組むことが求められます。</p> <p>【到達目標】 TOEIC Part3 と Part7 を中心とした対策を行い、TOEIC スコア 600 点以上を獲得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	実力テストの後に自分の苦手意識に向き合う時間を設け、個々の対策を考えてもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Emiko Matsumoto et al. Strategic Practice for the TOEIC L&amp;R Test (600 点を目指す TOEIC L&amp;R TEST 演習) . SANSHUSHA. 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会『公式 TOEIC Listening and Reading 650 Plus』2023 年。</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 Introduction、Unit15 Mini Test</p> <p>第 2 回 Unit1 Restaurant, Unit2 Sightseeing</p> <p>第 3 回 Unit3 Business / Technology, Unit4 Hotel</p> <p>第 4 回 Unit5 Shopping / Purchase, Unit6 Transportation</p> <p>第 5 回 Unit7 Travel, Unit8 Housing</p> <p>第 6 回 Unit9 Entertainment, Unit10 Hobby</p> <p>第 7 回 Unit11 Education, Unit12 Sports</p> <p>第 8 回 Unit13 Hospital, Unit14 Employment</p> <p>第 9 回 Part3 (47-64) and Part7 (213-222)</p> <p>第 10 回 Part3 (65-82) and Part 7 (223-232)</p> <p>第 11 回 Part3 (83-91) and Part7 (233-247)</p> <p>第 12 回 Part7 (248-262)</p> <p>第 13 回 本番形式テスト (Reading)</p> <p>第 14 回 本番形式テスト (Listening) + 答え合わせ</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>予習：単語の勉強</p> <p>復習：授業で間違えた問題を見直しておく</p>				
成績評価の方法	授業参加 (授業での発言内容) が 20%、Vocabulary Quiz が 40%、復習テストが 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 177			担当者	遠峯 伸一郎
	英語学概論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語学諸分野の概説</p> <p>【概要】 音声学・音韻論、形態論、意味論、統語論の各分野を概観する。英語の実例分析も併せて行う。</p> <p>【到達目標】 音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して、英語の例を分析できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	問題演習において、受講者間の情報交換や討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 稲木昭子・沖田知子・堀田知子 (2002) 『新えいご エイゴ 英語学』 松柏社、東京。</p> <p>(2) 白畑知彦 (2021) 『英語教師がおさえておきたい ことばの基礎的知識』 大修館書店、東京。／大名力 (2023) 『英語の発音と綴り-なぜ walk がウォークで、work がワークなのか』 中央公論新社、東京。その他随時紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、英語学とは何か</p> <p>第 2回 音声学・音韻論(1) 言語音の作られ方、英語の母音</p> <p>第 3回 音声学・音韻論(2) 英語の子音</p> <p>第 4回 音声学・音韻論(3) 音素と異音、綴りと発音の対応</p> <p>第 5回 音声学・音韻論(4) 英語のアクセントとイントネーション</p> <p>第 6回 音声学・音韻論(5) 英語の音変化と音脱落</p> <p>第 7回 形態論(1) 派生、屈折</p> <p>第 8回 形態論(2) 複合</p> <p>第 9回 形態論(3) 転換、その他の語形成過程</p> <p>第 10回 統語論(1) 句や文の組み立てに見る規則性 統合的關係と範列的關係</p> <p>第 11回 統語論(2) 句構造規則</p> <p>第 12回 統語論(3) 品詞、コロケーション、文法と意味の接点</p> <p>第 13回 意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義</p> <p>第 14回 意味論(2) 比喻</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 178			担当者	遠峯 伸一郎
	英文法			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英文法（文法化されている意味とその形態的・統語的具現）</p> <p>【概要】本授業は、動詞（時制、相）、名詞・冠詞、前置詞、助動詞、準動詞などについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】英語の文法について理解している。具体的には、中・高等学校で学んだ文法事項を再確認し理解を正確にする。その後、中・高等学校で学んだ文法事項の正確な理解を基盤として、発展的な事項を理解する。加えて、英文法と日本語文法と対比させて、基本的な異同を的確に把握できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	問題演習時に情報交換と討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Murphy, R. (著) 渡辺雅仁・田島祐規子 (訳) (2021) 『マーフィーのケンブリッジ英文法中級編 第4版』, ケンブリッジ大学出版局, シンガポール。</p> <p>(2) 久野暉・高見健一, 『謎解きの英文法』シリーズ, くろしお出版, 東京。その他の参考文献は随時紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 時制と相 (1) 現在形と現在進行形</p> <p>第 3回 時制と相 (2) 過去形と現在完了形</p> <p>第 4回 時制と相 (3) 現在完了進行形, 過去完了形</p> <p>第 5回 時制と相 (4) 未来の表現</p> <p>第 6回 時制と相の単元試験, 名詞における可算・不可算の区別</p> <p>第 7回 不定冠詞, 数量詞の用法</p> <p>第 8回 定冠詞の用法 (1)</p> <p>第 9回 定冠詞の用法 (2)</p> <p>第 10回 名詞の総称表現</p> <p>第 11回 名詞と冠詞の単元試験, 動名詞と to 不定詞 (1)</p> <p>第 12回 動名詞と to 不定詞 (2)</p> <p>第 13回 動名詞と不定詞の単元試験, 総合練習問題 (1)</p> <p>第 14回 総合練習問題 (2)</p> <p>第 15回 全体のまとめ, 全体試験</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習 2時間以上、復習 2時間以上必要である。高校卒業程度の英語力を前提とする。				
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 179		担当者	遠峯 伸一郎	
	英語史		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の誕生から英語が世界共通語となった現代までの英語の歩んだ歴史を外面史（英語が使われる社会の歴史）と内面史（英語という言葉の通時的変化）の観点から学ぶ。</p> <p>【概要】現代英語には英語の歩んできた歴史が反映している。例えば、英語は文字としてローマンアルファベットを使うが、その理由を知るには英語の歴史を学ぶ必要がある。本講義では、英語という言葉の歴史を歴史的側面からアプローチする。加えて、現代において世界各地で使われている様々な英語変種の特徴についても触れる。</p> <p>【到達目標】英語の音声、文字、語彙、文法の歴史の変遷について基礎的な知識を持っている。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	問題演習において、受講者間の情報交換や討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 稲木昭子・沖田知子・堀田知子 (2002) 『新えいご エイゴ 英語学』松柏社、東京。</p> <p>(2) 寺澤盾 (2013) 『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店、東京。堀田隆一 (2014) 『英語史で解きほぐす英語の誤解』中央大学出版部、東京。井口篤、寺澤盾 (2013) 『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会、東京。ブラッグ、メルヴィン (2008) 『英語の冒険』講談社、東京。柳朋宏 (2019) 『英語の歴史をたどる旅』中部大学出版局、春日井。その他随時紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、世界のなかの英語</p> <p>第 2 回 インド・ヨーロッパ祖語</p> <p>第 3 回 英語の始まり</p> <p>第 4 回 古英語 英語のアルファベットの起源と豊富な語尾</p> <p>第 5 回 古英語 古英語の文法</p> <p>第 6 回 ヴァイキングの侵攻と英語</p> <p>第 7 回 ノルマン征服と中英語</p> <p>第 8 回 中英語とフランス語借用語</p> <p>第 9 回 キリスト教と英語</p> <p>第 10 回 初期近代英語</p> <p>第 11 回 後期近代英語</p> <p>第 12 回 英語の変種 イギリス英語・アメリカ英語・オーストラリア英語・ニュージーランド英語</p> <p>第 13 回 英語の変種 アジアの英語・ピジンとクレオール</p> <p>第 14 回 現代イギリス英語と現代アメリカ英語</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 180			担当者	未定
	英語音声学			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> <b>【概要】</b> <b>【到達目標】</b>				
学生の主体的 ・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 181			担当者	山下 孝子
	英文学概論			授業外対応	質問には講義終了時に対応する。メールでの問い合わせも可。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 入門！イギリス文学</p> <p>【概要】 イギリス文学をその歴史とジャンル、特色を辿りながら概観し、いくつかの代表的な作品を読んでグループ・ディスカッションをし、作品世界ないしはイギリス文学全体像へのアプローチを試みます。作品読解はあらすじやテーマ紹介をグループ・プレゼンテーションによって共有した上で、その一部分の英語原文を速読と精読で読み解いていきます。精読部分はあらかじめ全員に次回分の和訳を提出してもらい、英文読解スキル向上を図ります。最終的に作品分析を含むレポートを作成し、理解を深めます。</p> <p>【到達目標】 イギリス文学の歴史/ジャンル/特色を理解する。英文の内容を正しく理解できる。作品世界を説明できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、7、8 回程度、その時間に対象とする作品について作者紹介/あらすじ要約/テーマ紹介にかかわる 2、3 名のグループ・プレゼンテーションを行ない、情報を共有します。また、作品を読んだ後に作品をどう理解するかのグループ・ディスカッションを試みます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 授業時に適宜指示				
授業 スケジュール	第 1 回 イギリス文学への扉：イントロダクション 第 2 回 ルネサンス以前のイギリス文学/ジェフリー・チョーサー作品やアーサー王伝説 第 3 回 演劇時代の到来、シェイクスピア登場 第 4 回 ウィリアム・シェイクスピアの悲劇『ロミオとジュリエット』を探る 第 5 回 ウィリアム・シェイクスピアの喜劇『十二夜』を探る 第 6 回 イギリスの詩/シェイクスピアのソネット～ミルトンの『失樂園』～ロマン派詩人たち 第 7 回 風刺文学/スウィフト作品を読む 第 8 回 ゴシック/『フランケンシュタイン』を読む 第 9 回 小説時代の到来/ジェーン・オースティン作品を読む 第 10 回 ディケンズ作品を読む 第 11 回 シャーロット・ブロンテ作品を読む 第 12 回 エミリー・ブロンテ作『嵐が丘』を読む 第 13 回 トマス・ハーディ作『ダーバヴィル家のテス』を読む 第 14 回 カズオ・イシグロ作『私を離さないで』を読む 第 15 回 イギリス文学とは？：まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業前に指示された場合、その部分の英語和訳を提出する				
成績評価の方法	レポート (20%)，小テスト (30%)，和訳課題提出を含む授業への取り組み (30%)，グループ・プレゼンテーション (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 182			担当者	小林 朋子
	米文学史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期,後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。作品に使用されている様々な英語表現について学ぶため、必ず英和辞典を持参すること。</p> <p>【到達目標】アメリカ文学史上、代表的な作品についてその内容を理解している。アメリカ文学が描いてきたアメリカ社会・文化について理解を深め、その知見に基づいて多角的に現代のアメリカ文化を理解できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、作品内容や自分の訳文について、グループもしくはペアで議論する時間を設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 イントロダクションーネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第 2回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（1）</p> <p>第 3回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（2）</p> <p>第 4回 「驚異」の世界ーロマン主義の勃興</p> <p>第 5回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（1）</p> <p>第 6回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（2）</p> <p>第 7回 「金めつき時代」ーリアリズムの勃興</p> <p>第 8回 危機と革新ーリアリズムの展開</p> <p>第 9回 繁栄と解放の文学ーロスト・ジェネレーション</p> <p>第 10回 世界へ向けてーモダニズムの文学</p> <p>第 11回 戦後文学の出発ー第 2 次世界大戦と冷戦</p> <p>第 12回 自我をつくろうー人種系文学（1）</p> <p>第 13回 自我をつくろうー人種系文学（2）</p> <p>第 14回 自己の探求ーポスト・モダニズムの文学</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 183		担当者	小林 朋子	
	比較文学		授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学</p> <p>【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ベラヴド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテキストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。</p> <p>【到達目標】比較文学の研究方法を習得する。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、授業内容に基づき、グループもしくはペアで英語から日本語への翻訳を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) Toni Morrison Beloved Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外も授業で随時紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODダクション：対話的文学論とは</p> <p>第 2回 Beloved と神話批評</p> <p>第 3回 Beloved とウィネバゴ・インディアン神話 (1)</p> <p>第 4回 Beloved とウィネバゴ・インディアン神話 (2)</p> <p>第 5回 Beloved とヨルバ族神話</p> <p>第 6回 大衆文化の中のトリックスター</p> <p>第 7回 名称付与とは何か</p> <p>第 8回 Beloved と「千と千尋の神隠し」(1)</p> <p>第 9回 Beloved と「千と千尋の神隠し」(2)</p> <p>第 10回 Beloved と「千と千尋の神隠し」(3)</p> <p>第 11回 言語の表象不可能性</p> <p>第 12回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』(1)</p> <p>第 13回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』(2)</p> <p>第 14回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』(3)</p> <p>第 15回 レポートのテーマ報告会とまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業への参加態度 (10%)、テーマごとに提出する小レポート (30%)、最終レポート (60%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 184		担当者	山下 孝子	
	英語文学講読 A		授業外対応	質問には講義終了時に対応する。メールでの問い合わせも可。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ギリス名作小説を楽しもう—『フランケンシュタイン』を読む</p> <p>【概要】 超自然的小説ジャンルであるゴシック・ロマンスの傑作、メアリ・シェリー作『フランケンシュタイン』を英語で読み解きます。怪物の固定的イメージが突出しながらも、実際の物語は知られていない作品ですが、原作を丁寧に読み、有名小説を原文で味わう楽しみを分かち合いましょう。授業の展開としては、毎回分のテキスト範囲について速読と精読を行なっていきます。精読部分はあらかじめ和訳を提出してもらい、英文読解スキル向上を図ります。最終的に作品分析を含むレポートを作成し、理解を深めます。</p> <p>【到達目標】 英文の内容を正しく理解できる。英語のパラグラフを簡潔に英語で要約できる。英語小説の作品世界を説明できる。物語を支える小説ジャンルを理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	15回中、数回程度、その都度テーマを与え、2、3名のグループで作品を分析する話し合いをして発表を行ない、理解の共有を図ります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 授業時に適宜指示				
授業 スケジュール	第 1回 文学におけるゴシック・ロマンスの系譜と作品『フランケンシュタイン』の概説 第 2回 『フランケンシュタイン』前書きの書簡、および第1巻第1章のパラグラフ要約、英文和訳 第 3回 『フランケンシュタイン』第1巻第2章～4章のパラグラフ要約、英文和訳 第 4回 『フランケンシュタイン』第1巻第5章～6章のパラグラフ要約、英文和訳 第 5回 『フランケンシュタイン』第1巻第7章～第2巻第1章のパラグラフ要約、英文和訳 第 6回 『フランケンシュタイン』第2巻第2章～第3章のパラグラフ要約、英文和訳 第 7回 『フランケンシュタイン』第2巻第4章～第5章のパラグラフ要約、英文和訳 第 8回 『フランケンシュタイン』第2巻第6章～第7章のパラグラフ要約、英文和訳 第 9回 『フランケンシュタイン』第2巻第8章～第9章のパラグラフ要約、英文和訳 第10回 『フランケンシュタイン』第3巻第1章～第2章のパラグラフ要約、英文和訳 第11回 『フランケンシュタイン』第3巻第3章～第4章のパラグラフ要約、英文和訳 第12回 『フランケンシュタイン』第3巻第5章～6章のパラグラフ要約、英文和訳 第13回 『フランケンシュタイン』第3巻第7章、および結びの書簡のパラグラフ要約、英文和訳 第14回 『フランケンシュタイン』におけるゴシック・ロマンス的表現 第15回 理解度チェックとまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業前に指示された部分の英語和訳を提出する。授業後に配布される課題で復習しておくこと				
成績評価の方法	レポート (20%)、毎回の和訳課題提出を含む授業への取り組み (50%)、小テスト (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 185		担当者	小林 朋子	
	英語文学講読 B		授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語文学を翻訳することを通して、英語表現の豊かさを学ぶ。</p> <p>【概要】 トニ・モリスンの『青い眼がほしい』(The Bluest Eye, 1970年)を英語で読解する。この作品は、9歳の少女を基本の語り手としているが、全知の視点からの語り、書簡や日記の挿入など、多様な語りの形式を学ぶことができるテキストとなっている。受講者には訳読を担当する箇所が割り当てられるので、講義内で学ぶ文法事項や提供する資料、また受講者同士のグループ・ディスカッションで得た見解に基づいて、文学テキストを「翻訳する」作業に挑戦してもらおう。また本作には20世紀中葉のアメリカ大衆文化が様々に描かれている。それらの文化に着目することで、その文化を生み出した社会やそこに生きる人々の価値観についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 文学作品を辞書を使用して正確に読解することができる。翻訳の意味を理解することで、文化の翻訳も含めた広い意味での英文解釈ができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、翻訳をテーマにペアワークやグループディスカッションを行い、内容の理解を深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業で随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1回 インTRODクシヨN 第 2回 The Bluest Eye パート1を読む：翻訳とは何か1 第 3回 The Bluest Eye パート1を読む：翻訳とは何か2 第 4回 The Bluest Eye パート1を読む：翻訳とは何か3 第 5回 The Bluest Eye パート2を読む：20世紀中葉の映画文化1 第 6回 The Bluest Eye パート2を読む：20世紀中葉の映画文化2 第 7回 The Bluest Eye パート2を読む：20世紀中葉の映画文化3 第 8回 The Bluest Eye パート3を読む：20世紀中葉の大衆文化1 第 9回 The Bluest Eye パート3を読む：20世紀中葉の大衆文化2 第 10回 The Bluest Eye パート3を読む：20世紀中葉の大衆文化3 第 11回 The Bluest Eye パート4を読む：アフリカ系アメリカ人の音楽文化1 第 12回 The Bluest Eye パート4を読む：アフリカ系アメリカ人の音楽文化2 第 13回 The Bluest Eye パート5を読む：アフリカ系アメリカ人の音楽文化3 第 14回 The Bluest Eye パート5を読むアフリカ系アメリカ人の音楽文化4 第 15回 まとめとレポート提出における留意点				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出物 (40%)、最終レポート (30%)、授業への取組み態度 (30%) で評価する。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 186			担当者	野田 ゆり子
	英語文学講読 C			授業外対応	授業前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 イギリスのファンタジーに親しむ</p> <p>【概要】 本授業では、二十世紀の作家 C. S. ルイスによるファンタジー『ナルニア国物語』の一作『魔術師のおい (The Magician's Nephew)』を英語で読み解いていきます。要約・和訳などの読解問題の取り組みに加え、歴史的背景や宗教的象徴性を紹介することで、原文で物語を理解する力と、読解を深めるための知識を養います。あわせて、本作の影響を受けた現代の幻想譚『ピラネージ (Piranesi)』も分析します。</p> <p>【到達目標】 洋書を一冊読破できる英語力を身につける。様々な背景を鑑みた上で、英文を読みこむ力をつける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	予習内容 (要約問題) を踏まえた上で、授業内ではグループで和訳に取り組んでもらいます。毎回コメントペーパーを配布し、学生から出た質問に対して、教員から適宜解答を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Lewis, C. S. The Magician's Nephew. Harper Collins, 2023.</p> <p>(2) Clarke, Susanna. Piranesi. Bloomsbury Publishing PLC, 2021.</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス (C. S. ルイス、および『ナルニア国物語』について解説)</p> <p>第 2回 映画鑑賞</p> <p>第 3回 The Magician's Nephew Chapter 1,2</p> <p>第 4回 The Magician's Nephew Chapter 3,4</p> <p>第 5回 The Magician's Nephew Chapter 5,6</p> <p>第 6回 The Magician's Nephew Chapter 7,8</p> <p>第 7回 The Magician's Nephew Chapter 9,10</p> <p>第 8回 The Magician's Nephew Chapter 11,12</p> <p>第 9回 The Magician's Nephew Chapter 13,14</p> <p>第 10回 The Magician's Nephew Chapter 15</p> <p>第 11回 Piranesi Part1,2</p> <p>第 12回 Piranesi Part3,4</p> <p>第 13回 Piranesi Part5,6</p> <p>第 14回 Piranesi Part7</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：毎回の授業までにテキストを読み、予習プリント (要約問題) に取り組む。 復習：授業内で分からなかった和訳については、適宜復習しておく。				
成績評価の方法	毎授業の提出課題が 40%、学期内レポートが 30%、期末試験が 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 187			担当者	石井 英里子
	異文化コミュニケーション 概論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Introduction to Intercultural Communication</p> <p>【概要】 In this course students will learn about culture and the factors that influence communication. Students will read the textbook and prepare a poster presentation before class. Students will be expected to participate actively in group work and active discussion in English.</p> <p>【到達目標】 By the end of the course, students will understand the diversity of world cultures, the current status and challenges of intercultural communication, and be prepared to actively participate in intercultural exchange.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	各章についてポスター発表を準備し、グループディスカッションを英語で行います。異文化体験を共有し、多様な視点から文化を考察します。最終プレゼンテーションでは、学んだ理論を自分の経験に結びつけて発表し、相互評価を通じて学びを深めます。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Vincent, P. (2017). Speaking of intercultural communication. Nan'un-do.</p> <p>(2) Stringer M. D. &amp; Cassiday, A. P. (2009). 52 activities for improving cross-cultural communication. Intercultural Press.</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2回 Communication</p> <p>第 3回 Culture</p> <p>第 4回 Nonverbal Communication</p> <p>第 5回 Communicating Clearly</p> <p>第 6回 Culture and Values</p> <p>第 7回 Culture and Perception</p> <p>第 8回 Diversity</p> <p>第 9回 Stereotypes</p> <p>第 10回 Culture Shock</p> <p>第 11回 Culture and Change</p> <p>第 12回 Talking about Japan</p> <p>第 13回 Becoming a Global Person</p> <p>第 14回 Reflection</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In Class Presentation30% Final Presentation 30% Final Report40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 188			担当者	ジョン・トレマーコ
	イギリス事情			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>【概要】 This course will introduce the students to British cultural and social issues. The students will be encouraged to acquire a deep understanding of cross cultural communication that will enable them to understand the nature of cultural diversity. Learning Strategies and Active Learning will be encouraged so that they will be able to use/pass this knowledge on in their chosen professions and/or foreign language classes in Junior and Senior high schools. The aim of the course is to give the students the skills needed to be able to make a presentation at the end of the course that will show that they have acquired an understanding of a particular facet of British society. The course will be project-based. The theme of the project will be decided upon by the students; it will be chosen according to the aptitude, skill-level and number of students on the course. The students will study the social and cultural norms of British society, both present and past. The themes available will include, but are not limited to: Music (classical and modern), Education, Food and Current Issues. Any chosen project will include a comparative cultural component.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials provided by the professor (2) Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)				
授業スケジュール	第 1回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース、授業についての説明 第 2回 Choosing the Project theme 第 3回 Planning and implementation of Project 第 4回 Planning and implementation of Project 第 5回 Planning and implementation of Project 第 6回 Planning and implementation of Project 第 7回 Planning and implementation of Project 第 8回 Planning and implementation of Project 第 9回 Planning and implementation of Project 第 10回 Planning and implementation of Project 第 11回 Planning and implementation of Project 第 12回 Planning and implementation of Project 第 13回 Planning and implementation of Project 第 14回 Final Presentation 第 15回 Course Review				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	グループワークの点数と課題 40%+最終テスト 60%の合計				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 189			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	アメリカ事情			授業外対応	Office Hours
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 American Cultural History</p> <p>【概要】 In this course, we will study the most significant events in American history, politics and culture. Students will discuss issues related to them, developing a critical thinking that will lead them to deepen the understanding of the main issue proposed in this course.</p> <p>【到達目標】 The objective of this course is for students to acquire a broad knowledge of the most important historical and cultural events in the United States so that they are able to understand how those events have influenced the configuration of the country today</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be provided by the teacher.</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Course explanation. Unit 1 : The colonial times</p> <p>第 2 回 Unit 1: building a new nation. The Road to independence</p> <p>第 3 回 Unit 1: building a new nation. The American Revolution.</p> <p>第 4 回 Unit 1: building a new nation. The Articles of Confederation and the US Constitution (analysis).</p> <p>第 5 回 Unit 2: The Expansionism Era. Louisiana Purchase and Manifest Destiny.</p> <p>第 6 回 Unit 2: The Expansionism Era. Mexican-American War. The Gold Rush.</p> <p>第 7 回 Unit 2: The Expansionism Era. Transcendentalism.</p> <p>第 8 回 Unit 3: The Civil War.</p> <p>第 9 回 Unit 4: The Reconstruction Era. General View.</p> <p>第 10 回 Unit 4. The Reconstruction Era. The Civil Rights At of 1866 and the 13th, 14th and 15th Amendments (Analysis and Discussion).</p> <p>第 11 回 Unit 4. Reconstruction era. Discrimination and hatred: The Black Codes and the Ku Klux Klan.</p> <p>第 12 回 Unit 4. The End of the Reconstruction Era. The Jim Crow Laws. Viewing of videos about discrimination in popular culture. Comments on them</p> <p>第 13 回 Unit 5. Going to the West. The Cowboy culture. An American story: Levi's and the cowboy spirit.</p> <p>第 14 回 Unit 6: Going to the West: The struggle of native Americans.</p> <p>第 15 回 Review of the course.</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	Report (70%); participation in class (30%)				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				

授業科目	授業番号： 190		担当者	小林 朋子	
	ヨーロッパ事情		授業外対応	適宜対応（要予約）	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ</p> <p>【概要】15世紀後半から19世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟む南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステイタスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義は「国家」間に限定されない異文化交流の歴史をヨーロッパを中心に概観する。そして西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中枢」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説していく。</p> <p>【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ヨーロッパの思想をテーマに、学生による発表を行う。受講者は、15回のうち1回発表を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 明石和康著『ヨーロッパがわかる—起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書（岩波書店、2013年）</p> <p>(2) 授業で随時紹介します</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか（1）</p> <p>第3回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか（2）</p> <p>第4回 近代世界と大西洋システム（1）</p> <p>第5回 近代世界と大西洋システム（2）</p> <p>第6回 近代世界と大西洋システム（3）</p> <p>第7回 大西洋奴隷貿易（1）：ルネサンスと地理上の発見</p> <p>第8回 大西洋奴隷貿易（2）：海洋国家オランダ</p> <p>第9回 大西洋奴隷貿易（3）：奴隷と砂糖をめぐる政治</p> <p>第10回 コーヒー・ハウスが育んだ近代文化</p> <p>第11回 イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」</p> <p>第12回 大西洋システムとしての「イギリス帝国」</p> <p>第13回 資本主義世界と奴隷制：地中海から大西洋へ—砂糖の西漸運動</p> <p>第14回 資本主義世界と奴隷制：ヨーロッパの闘技場—カリブ海領有をめぐる角逐</p> <p>第15回 まとめ：砂糖と紅茶—ティータイム儀礼化に内包された歴史</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、発表（30%）、最終レポート（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 191			担当者	楊 虹
	対照言語学			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出た質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる模擬授業を10分程度行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第 10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第 11回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第 12回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第 13回 発表準備 第 14回 学生による発表 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度及び発表：60%，レポート：40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 192			担当者	小亀 拓也
	日本語学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】日本語の各研究分野（音声・音韻，文字・表記，語彙・意味）について概観する。</p> <p>【到達目標】日本語学の基本的な考え方を身につけ，身の回りの言語現象をについて，分析・考察を通して思考を深め，的確に表現できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 沖森卓也ほか『図解日本語』（第2版）三省堂</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。</p> <p>第 2回 現代日本語の音声と音韻 1：音声器官，音声記号</p> <p>第 3回 現代日本語の音声と音韻 2：日本語の母音，母音の無声化，促音化</p> <p>第 4回 現代日本語の音声と音韻 3：日本語の子音，調音点・調音法・声帯振動</p> <p>第 5回 現代日本語の音声と音韻 4：音声と音韻，音素と異音</p> <p>第 6回 現代日本語の音声と音韻 5：相補分布，条件異音と自由異音，特殊音素</p> <p>第 7回 現代日本語の音声と音韻 6：拍（モーラ）と音節（シラブル）</p> <p>第 8回 現代日本語の音声と音韻 7：アクセント，イントネーション，プロミネンス</p> <p>第 9回 中間試験，前半のまとめ</p> <p>第 10回 現代日本語の文字・表記 1：日本語の表記の特色</p> <p>第 11回 現代日本語の文字・表記 2：漢字表，字音と字訓，漢字の成り立ち</p> <p>第 12回 現代日本語の文字・表記 3：平仮名，片仮名，ローマ字</p> <p>第 13回 現代日本語の語彙 1：語と語彙，語構成</p> <p>第 14回 現代日本語の語彙 2：語種（和語，漢語，外来語，混種語）</p> <p>第 15回 現代日本語の文法 3：語彙と語彙量（語彙の系統性，理解語彙と使用語彙）</p>				
授業外学習 (予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また，毎授業冒頭に復習小テストを行うため，復習が必要である。				
成績評価の方法	小テストの成績（20%），中間試験の成績（40%），定期試験の成績（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 193			担当者	木戸 裕子
	日本文学史 I			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】 日本文学史・古典 I は上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】 上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 はじめに：オリエンテーション，文学の発生，文学史の区分</p> <p>第 2回 古代その 1：上代の説話文学（1）</p> <p>第 3回 古代その 2：上代の説話文学（2）</p> <p>第 4回 古代その 3：上代の説話文学（3）</p> <p>第 5回 古代その 4：祝詞・宣命</p> <p>第 6回 古代その 5：漢詩文</p> <p>第 7回 古代その 6：上代の和歌・歌謡（1）</p> <p>第 8回 古代その 7：上代の和歌・歌謡（2）</p> <p>第 9回 古代その 8：上代の和歌・歌謡（3）</p> <p>第 10回 古代その 9：中古の漢詩文（1）</p> <p>第 11回 古代その 10：中古の漢詩文（2）</p> <p>第 12回 古代その 11：中古の和歌（1）</p> <p>第 13回 古代その 12：中古の和歌（2）</p> <p>第 14回 古代その 13：中古の物語（1）</p> <p>第 15回 古代その 14：中古の物語（2）</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30%，筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

(注) 隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 194		担当者	木戸 裕子	
	日本文学史Ⅱ		授業外対応	オフィスアワーに準じる。	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。</p> <p>【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。</p> <p>【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院</p> <p>(2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 古代その 15：中古の物語（3）源氏物語</p> <p>第 2回 古代その 16：中古の物語（4）源氏物語</p> <p>第 3回 古代その 17：中古の日記</p> <p>第 4回 古代その 18：中古の随筆</p> <p>第 5回 古代その 19：中古の歴史物語</p> <p>第 6回 古代その 20：中古の説話</p> <p>第 7回 中世その 1：中世の和歌（1）</p> <p>第 8回 中世その 2：中世の和歌（2）</p> <p>第 9回 中世その 3：中世の和歌（3）</p> <p>第 10回 中世その 4：連歌・歌謡</p> <p>第 11回 中世その 5：中世の漢詩文</p> <p>第 12回 中世その 6：物語・日記・紀行・随筆</p> <p>第 13回 中世その 7：歴史物語・説話文学</p> <p>第 14回 中世その 8：戦記物語・謡曲</p> <p>第 15回 中世その 9：謡曲・狂言</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30%、筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

(注) 隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 195			担当者	楊 虹
	日本語教育概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語教育学の基礎を学ぶ</p> <p>【概要】この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる模擬授業を10分程度行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第 2 回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室 第 3 回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第 4 回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析 第 5 回 教師の役割②シラバス・デザイン 第 6 回 教材分析 第 7 回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ 第 8 回 教授法②：授業見学 第 9 回 教授法③：授業見学の振り返り 第 10 回 授業の計画と実施①授業の組み立て方 第 11 回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習 第 12 回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク 第 13 回 フォリナートークとやさしい日本語 第 14 回 模擬授業の準備 第 15 回 模擬授業の実施、全体のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜予習復習の課題を出すので、調べたり考えたりして積極的に取り組む必要である。				
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 196		担当者	専任未定
	国際経済論		授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]
				[授業形態]
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> <b>【概要】</b> <b>【到達目標】</b>			
学生の主体的 ・対話的な学び				
(1)テキスト	(1)			
(2)参考文献	(2)			
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回			
授業外学習 (予習・復習)				
成績評価の方法				
実務経験について				

授業科目	授業番号： 197			担当者	福田 忠弘
	国際関係論			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出された質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 適宜、紹介する。				
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化 第 4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1 第 6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2 第 7回 国際関係のなりたち4：核兵器について 第 8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム 第 9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序 第 10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題 第 11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発 第 12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題 第 13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界 第 14回 国際社会における諸問題5：コロナ、ウクライナ後の社会 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGOでの勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 198			担当者	遠峯 伸一郎
	演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語と英語の意味について比較・対照する。</p> <p>【概要】日本語の英語は様々な点で異なる。そのような相違点のうち、意味に関する違いを取り上げて、認知言語学の観点から理解を深める。</p> <p>【到達目標】人間の認知と言語の接点についてより深い理解を得る。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	問題演習時に情報交換と討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村益寛 (2014)『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房、東京。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 第1章 世界の立ち現われ方 1</p> <p>第 3回 第2章 世界の立ち現われ方 2</p> <p>第 4回 第3章 意味とは何か？</p> <p>第 5回 第4章 比喩 1</p> <p>第 6回 第5章 比喩 2</p> <p>第 7回 第6章 意味変化</p> <p>第 8回 第7章 多義語</p> <p>第 9回 第14章 日英対照研究</p> <p>第10回 第8章 語から文へ</p> <p>第11回 第9章 文法とは何か？</p> <p>第12回 第10章 文法マーカー・品詞・文法関係</p> <p>第13回 第11章 他動性</p> <p>第14回 総合問題演習</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習2時間以上、復習2時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み (70%) + レポート (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 199			担当者	小林 朋子
	演習 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文化・比較文学（基礎）</p> <p>【概要】比較文化・比較文学に関する基礎的な論文を精読する。受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをし議論を深める。まずは「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テキストの読み取りをテーマにした論文を読み、日英両言語に対する感度を高める。また世界的な視野をもって考えるために必要な構造的読解力と知識を得るため、文学・歴史・ジェンダーをテーマとした論文を読解する。</p> <p>【到達目標】比較文化・比較文学の基礎的な考え方を習得している。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	受講者は 15 回のうち数回、担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業で随時紹介します</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン</p> <p>第 2回 言葉というシンボル1</p> <p>第 3回 言葉というシンボル2</p> <p>第 4回 ジェンダーと敬語</p> <p>第 5回 言葉づかいとアイデンティティ</p> <p>第 6回 小説の翻訳1</p> <p>第 7回 小説の翻訳2</p> <p>第 8回 世界文学への招待1</p> <p>第 9回 世界文学への招待2</p> <p>第 10回 世界文学への招待3</p> <p>第 11回 人種と民族とジェンダー1</p> <p>第 12回 人種と民族とジェンダー2</p> <p>第 13回 人種と民族とジェンダー3</p> <p>第 14回 人種と民族とジェンダー4</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%)、演習全体への積極的な参加態度 (40%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 200			担当者	石井 英里子
	演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語コミュニケーション活動を体験し、「なぜ人は話したくなるのか」を分析する</p> <p>【概要】この演習では、さまざまな英語コミュニケーション活動を実際に体験しながら、「なぜ人は話したくなるのか/話す気にならないのか」を分析する。情報の差 (information gap) という考え方を手がかりに、会話が生まれるしくみを、英語での活動やディスカッションを通して探る。English Skills C や異文化コミュニケーション概論での学びを土台に、分析した内容を英語で発表する。</p> <p>【到達目標】英語コミュニケーション活動を体験的に理解し、会話が生まれる条件を情報の差の観点から説明できる。分析した内容を英語でわかりやすく発表できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の活動をグループで体験し、英語で振り返って「話が弾んだ瞬間」を共有する。分析プロジェクトでは観点をグループで出し合いながら進め、最終回には分析結果を英語でプレゼンテーションし、相互に質疑・講評を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) Pica, T., Kang, H. S., &amp; Sauro, S. (2006). Information gap tasks: Their multiple roles and contributions to interaction research methodology. <i>Studies in Second Language Acquisition</i>, 28(2), 301-345.</p> <p>Ur, P. (1981). <i>Discussion That Work: Task-centred Fluency</i></p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：ゼミの進め方とゴールの共有、英語での自己紹介アクティビティ</p> <p>第 2回 体験①：英語でのインタビュー・ゲーム (情報を聞き出す楽しさを味わう)</p> <p>第 3回 体験②：絵の違い探し (spot the difference) で「情報の差」を体感する</p> <p>第 4回 振り返り①：これまでの活動を英語で振り返り、「話が弾んだ瞬間」を共有する</p> <p>第 5回 information gap とは何か：身近な会話例から概念を理解する (読み物+ディスカッション)</p> <p>第 6回 体験③：地図・時間割などの「情報の差」を埋める活動</p> <p>第 7回 体験④：推論ギャップ・意見ギャップ型の活動 (問題解決・意見交換)</p> <p>第 8回 3つのギャップを比べる：英語での小グループ・ディスカッション</p> <p>第 9回 文化と「ギャップ」：異文化コミュニケーション概論とのつながりを考える</p> <p>第 10回 「通じない」を体験する：価値観の違いから生まれるすれ違いを扱う活動</p> <p>第 11回 分析プロジェクト準備：気になる活動を1つ選び、分析の観点を決める</p> <p>第 12回 分析作業：選んだ活動の「どこにギャップがあるか」をグループで整理する</p> <p>第 13回 発表準備：英語でのプレゼンテーション資料を作成する</p> <p>第 14回 発表会：分析結果を英語でプレゼンテーションし、質疑応答を行う</p> <p>第 15回 まとめと振り返り：1年後期の学びを整理し、演習II (活動づくり) につなげる</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習が3時間以上、復習が3時間以上必要である。				
成績評価の方法	活動分析の発表 30% 授業への取り組み 30% レポート 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 201			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	演習 I			授業外対応	Office Hours.
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of American Cultural values through pop culture. Comparison of American Pop culture with that of Japan.</p> <p>【概要】 In this course we will learn and discuss how traditional American cultural values are expressed in its own popular culture (music, characters etc.). we will also compare American popular culture to that of Japan. Through discussions on the various topics proposed in this course program, students will develop critical thinking skills to be used in the creation of their graduation paper.</p> <p>【到達目標】 Through questions raised in class related to each topic of the course, students will acquire the ability to identify how American cultural values are represented in different forms of popular culture.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 Course explanation. 第 2回 Introduction to traditional American values. 第 3回 American values through music. 19th and first decades of the 20th century. 第 4回 American values through music. 1940s-1950s 第 5回 American values through music. 1960s-1970s 第 6回 American values through music. 1980s-2000/2010s 第 7回 Comparative: K-pop vs J-pop vs American boy-bands and girl-bands. 第 8回 The values of American pop culture characters. Introduction. 1930s 第 9回 The values of American pop culture characters. 1940s 第 10回 The values of American pop culture characters 1950s-1960s 第 11回 The values of American pop culture characters. 1970s-1990s 第 12回 Special activity: Viewing of Marvel Studios' Captain America. The First Avenger 第 13回 Discussion about the movie 第 14回 Special activity II: viewing of Zack Snyder's Watchmen 第 15回 Comments on the movie				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	Report (70%); participation in class (30%)				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				

授業科目	授業番号： 202		担当者	野田ゆり子	
	演習Ⅰ		授業外対応	授業前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英文学へのアプローチ：『ライオンと魔女』を手がかりとして</p> <p>【概要】 本授業では、C.S. ルイスによるファンタジー『ライオンと魔女 (The Lion, the Witch and the Wardrobe)』を手がかりとして、歴史、ジャンル、オリエンタリズム、宗教をはじめとする複数のテーマ別に作品を分析し、本作品の複層性について理解を深めます。主としてディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーションを中心としますが、適宜分析の方法を教員から示すことで、どのような角度からのアプローチが可能なのか自ら考え、応用する力を養います。</p> <p>【到達目標】 洋書を読破できる英語力を身に着ける。文学作品を批判的に読むための知識を獲得する。自ら疑問を持ち作品を分析する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	予習内容を踏まえた上で、授業内ではグループで和訳に取り組んでももらいます。毎回コメントペーパーを配布し、学生から出た質問に対して、教員から適宜解答を行います。授業後半においては、個人プレゼンテーションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Lewis, C. S. The Lion, the Witch and the Wardrobe. Harper Collins, 2023 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 第 1回 ガイダンス (C.S. ルイス、および『ナルニア国物語』シリーズの紹介) 第 2回 映画鑑賞『ナルニア国物語：第 1章 ライオンと魔女』(前半) 第 3回 映画鑑賞『ナルニア国物語：第 1章 ライオンと魔女』(後半) 第 4回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 1,2：歴史的背景と妖精物語 第 5回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 3,4：オリエンタリズム 第 6回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 5,6：ファンタジーについて 第 7回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 7,8：旧約聖書とナルニア 第 8回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 9,10：「憧れ」とは何か 第 9回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 11,12：騎士道精神 第 10回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 13,14：新約聖書とナルニア 第 11回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 15,16：善と悪 第 12回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 17：まとめ 第 13回 Presentation Preparation 第 14回 Presentation1 第 15回 Presentation2				
授業外学習 (予習・復習)	予習：毎回の授業までにテキストを読み、予習プリント（要約問題）に取り組む。 復習：授業内で分からなかった和訳については、適宜復習しておく。				
成績評価の方法	毎授業の提出課題が 40%、学期内レポートが 30%、プレゼンテーションが 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 203			担当者	遠峯 伸一郎
	演習Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】言語表現に見られる人間の認知モード、日本語と英語の対照。英語研究の手法。</p> <p>【概要】「演習Ⅰ」に続いて、事態把握の方法について学習を深める。併せて、卒業研究執筆に向けて、論文執筆のためのルールを学ぶ。</p> <p>【到達目標】日本語と英語の違いについて、認知と言語の関係から、より深い理解に到達する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	論文の内容を正確に理解するための討議を行う。また、受講者は自ら例文を収集し、論文の主張を検討する。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業で紹介する。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 レポートや論文のルール</p> <p>第 3回 プレゼンテーションからレポートへ</p> <p>第 4回 論文講読 1 (尾野 (2008) (1))</p> <p>第 5回 論文講読 1 (尾野 (2008) (2))</p> <p>第 6回 論文講読 1 (尾野 (2008) (3))</p> <p>第 7回 論文講読 1 (尾野 (2008) (4))</p> <p>第 8回 論文講読 1 (尾野 (2008) (5))</p> <p>第 9回 論文講読 2 (尾野 (2014) (1))</p> <p>第 10回 論文講読 2 (尾野 (2014) (2))</p> <p>第 11回 論文講読 2 (尾野 (2014) (3))</p> <p>第 12回 論文講読 2 (尾野 (2014) (4))</p> <p>第 13回 論文講読 2 (尾野 (2014) (5))</p> <p>第 14回 受講者による発表</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習 2 時間、復習 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み (70%) + レポート (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 204			担当者	小林 朋子
	演習Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文化・比較文学（応用）</p> <p>【概要】本演習では、演習Ⅰで学んだ比較文化・比較文学に関連する基礎的な知識を応用しながら、発展的な内容の論文を読解し、卒業研究につながる思考力と知識を養う。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取ることで、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えてくれることが求められる。</p> <p>【到達目標】比較文化・比較文学の研究方法を理解し、卒業研究に応用できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	受講者は15回のうち数回、担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業で随時紹介します</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨN</p> <p>第2回 多文化主義的家族像1</p> <p>第3回 多文化主義的家族像2</p> <p>第4回 母なるものの幻想1</p> <p>第5回 母なるものの幻想2</p> <p>第6回 歴史の再構築と再記憶1</p> <p>第7回 歴史の再構築と再記憶2</p> <p>第8回 エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖1</p> <p>第9回 エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖2</p> <p>第10回 奴隷貿易・奴隷制というトラウマ1</p> <p>第11回 奴隷貿易・奴隷制というトラウマ2</p> <p>第12回 語りとは革新的創造行為である1</p> <p>第13回 語りとは革新的創造行為である2</p> <p>第14回 語りとは革新的創造行為である3</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、討論への積極的な参加態度（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 205			担当者	石井 英里子
	演習Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 information gap を活かした英語コミュニケーション活動を作り、試し、仕上げる</p> <p>【概要】 この演習では、 information gap を活かした英語コミュニケーション活動を自分たちでデザインする。既存の活動を分析して設計のポイントを学んだうえで、「思わず英語で話したくなる」活動を企画・試作し、小中学校でのフィールドワークで子どもたちと一緒に実践する。子どもの反応をもとに改善を重ね、最終的に一人またはグループで活動の一つ完成させ、英語で発表する。</p> <p>【到達目標】 情報の差を活かした英語コミュニケーション活動を企画・試作・改善し、一つの活動として完成させることができる。成果を英語でわかりやすく発表できる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	活動の企画・試作はグループで進め、ゼミ内で互いの活動を英語で試してフィードバックし合う。フィールドワークでは小中学校で子どもたちと一緒に活動を行い、その反応を持ち寄って改善点を議論する。完成した活動は英語で発表し、相互に講評する。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) Ur, P. (2016). Penny Ur's 100 Teaching Tips. Cambridge University Press. Wright, A. (2022). Storytelling with Children (3rd ed.). Oxford University Press. Hadfield, J. (1990). Communication Games. Longman. Klippel, F. (1984). Keep Talking. Cambridge Unive</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：演習Ⅰの復習と、活動づくりのゴール設定</p> <p>第 2回 お手本に学ぶ①：既存の英語コミュニケーション活動を体験し、設計の工夫を読み解く</p> <p>第 3回 お手本に学ぶ②：「思わず話したくなる」しくみを分析し、設計のポイントを英語で言語化する</p> <p>第 4回 企画：対象（学年・テーマ・狙う英語表現）を決め、活動のアイデアを出し合う</p> <p>第 5回 設計①：活動の流れ・ルール・カードや教材を試作する</p> <p>第 6回 ゼミ内パイロット：お互いの活動を英語で試し、フィードバックし合う</p> <p>第 7回 改善①：フィードバックをもとに活動を作り直す</p> <p>第 8回 フィールドワーク準備：当日の流れ、教材の仕上げ、観察のポイントを確認する</p> <p>第 9回 フィールドワーク①：小中学校で子どもたちと一緒に活動を行う</p> <p>第 10回 フィールドワーク②（または記録・共有）：子どもたちの反応を持ち寄る</p> <p>第 11回 分析：フィールドワークでうまくいった点・いかなかった点を整理する</p> <p>第 12回 改善②：子どもの反応をもとに活動を仕上げる</p> <p>第 13回 完成版づくり：活動カード・手順書（英語）にまとめる</p> <p>第 14回 発表会：完成した活動を英語でプレゼンテーションし、相互に講評する</p> <p>第 15回 まとめと振り返り：成果を整理し、今後の活動につなげる</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習が3時間以上、復習が3時間以上必要である。				
成績評価の方法	活動の発表 30% 活動の完成版 30% レポート 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 206			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	演習Ⅱ			授業外対応	Office Hours
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of American Cultural values through pop culture. Comparison of American Pop culture with that of Japan.</p> <p>【概要】 This course is a continuation of Enshuu I, focusing on fast food culture and the Hollywood film industry. Finally, we will analyze Ernest Hemingway and his most significant works in relation to American values. Through discussions on the various topics proposed in this course program, students will develop critical thinking skills to be used in the creation of their graduation paper.</p> <p>【到達目標】 Through questions raised in class related to each topic of the course, students will acquire the ability to identify how American cultural values are represented in different forms of popular culture.</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 Course explanation. 第 2回 Unit 1: the hamburger paradise. Fast food and the American way I. Introduction. 第 3回 Unit 1: the hamburger paradise. Fast food and the American way II. The birth of the fast-food. 第 4回 Unit 1: the hamburger paradise. Fast food and the American way III. The success of fast-food. The real American dreamers. 第 5回 Unit 1: the hamburger paradise. Fast food and the American way IV. Fast-food as part of American life. 第 6回 Special Activity: viewing of the film The Founder. Discussion on the film. 第 7回 Special discussion: Japanese “American” fast-food. 第 8回 Unit 2: Hollywood, where your dreams will come true I. Introduction. 第 9回 Unit 2: Hollywood, where your dreams will come true II. The Golden Era: gangsters and cowboys. 第 10回 Unit 2: Hollywood, where your dreams will come true III. The end of the Golden Era and the emergence of the New Hollywood 第 11回 Unit 2: Hollywood, where your dreams will come true IV. The heyday of New Hollywood and Blockbuster Hollywood. 第 12回 Unit 3: Ernest Hemingway I. Life facts 第 13回 Unit 3: Ernest Hemingway II. His style and topics in his works 第 14回 Unit 3: Ernest Hemingway II. Reading of “Hills Like White Elephants” 第 15回 Special discussion: Hemingway and American values. Course review.				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	Report (70%); participation in class (30%)				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				

授業科目	授業番号： 207			担当者	遠峯 伸一郎
	卒業研究			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 演習 I、演習 II での学習成果を卒業研究にまとめる。</p> <p>【概要】 基礎演習 I と英語学演習 I を通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。</p> <p>【到達目標】 卒業研究を完成させる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	受講者は自ら設定した課題について、先行研究を援用しながら基本的に自力で解決を図る。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 個別指導(1)</p> <p>第 3 回 個別指導(2)</p> <p>第 4 回 卒業研究テーマについての中間発表</p> <p>第 5 回 個別指導(3)</p> <p>第 6 回 個別指導(4)</p> <p>第 7 回 先行研究と資料についての中間発表(1)</p> <p>第 8 回 先行研究と資料についての中間発表(2)</p> <p>第 9 回 個別指導(5)</p> <p>第 10 回 個別指導(6)</p> <p>第 11 回 考察についての中間発表</p> <p>第 12 回 個別指導(7)</p> <p>第 13 回 個別指導(8)</p> <p>第 14 回 サマリーの作成</p> <p>第 15 回 プレゼンテーション資料の作成</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	卒業研究 (80%) + プレゼンテーション (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 208			担当者	小林 朋子
	卒業研究			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】演習Ⅰ、演習Ⅱで学んだことを活用し、卒業論文を執筆する。</p> <p>【概要】演習Ⅰ、演習Ⅱの内容に基づき、自ら選んだテーマで卒業研究を行う。卒業研究発表会では卒業論文についてのプレゼンテーションを行い、会の参加者全員とその成果を共有する。</p> <p>【到達目標】卒業論文を完成し、その成果を共有する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	卒業研究発表会では、卒業研究に基づきプレゼンテーションを行い、フロアからの質問に回答する。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業で随時紹介します</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 テーマの確認と指導</p> <p>第 3回 研究論文執筆の指導：文献収集など</p> <p>第 4回 研究論文執筆の指導：論文の構成 1</p> <p>第 5回 研究論文執筆の指導：論文の構成 2</p> <p>第 6回 研究論文執筆の指導：論文の構成 3</p> <p>第 7回 中間発表</p> <p>第 8回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 1</p> <p>第 9回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 2</p> <p>第 10回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 3</p> <p>第 11回 研究論文執筆の指導：論文の推敲 1</p> <p>第 12回 研究論文執筆の指導：論文の推敲 2</p> <p>第 13回 研究論文執筆の指導：論文の推敲 3</p> <p>第 14回 卒業研究発表について</p> <p>第 15回 まとめ及び卒業研究発表の練習</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業への取組み態度 (30%)、卒業研究論文 (70%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 209			担当者	石井 英里子
	卒業研究			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化コミュニケーション，英語教育学に関する研究の課題と方法</p> <p>【概要】異文化コミュニケーション，英語教育学に関するテーマについて研究し，卒業研究を完成させる。</p> <p>【到達目標】英語で卒業研究を完成させる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>研究報告では、ゼミ生からの質問に答えることで研究を深化させます。発表原稿や資料について相互評価を行い、改善点を議論します。卒業研究発表の練習では、模擬質疑応答を繰り返し、プレゼンテーション能力を高めます。全体討論では、研究成果を振り返り、学びを共有します。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ゼミの進め方についてのガイダンス，夏休みの報告，卒業研究 first draft 提出</p> <p>第 2回 研究報告 1</p> <p>第 3回 研究報告 2</p> <p>第 4回 研究報告 3</p> <p>第 5回 研究報告 4</p> <p>第 6回 研究報告 5</p> <p>第 7回 研究報告 6</p> <p>第 8回 研究報告 7</p> <p>第 9回 研究報告 8，卒業研究発表原稿 first draft 提出</p> <p>第 10回 卒業研究発表会の資料作成 1，</p> <p>第 11回 卒業研究発表会の資料作成 2</p> <p>第 12回 卒業研究発表の練習 1</p> <p>第 13回 卒業研究発表の練習 2</p> <p>第 14回 卒業研究発表の練習 3</p> <p>第 15回 まとめと全体討論</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習が 3 時間以上，復習が 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	卒業研究 40% 卒業研究発表 60%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 210			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	卒業研究			授業外対応	Office Hours
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 In this course, you will acquire the knowledge necessary to carry an academic research and aimed at writing your graduation paper.</p> <p>【概要】 First, students will receive advice to help them find a research topic. They will then receive guidelines and tips for undertaking the research and writing the thesis. Finally, each week, the professor will assess the progress of the papers, and based on this, the professor will recommend changes or additions. Practice sessions for the final thesis presentation will also be held at the end of the course.</p> <p>【到達目標】 Enable the students to write and present their graduation paper (in English)</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 Course explanation 第 2回 The basics of an academic research. 第 3回 Research topic guidance (I) 第 4回 Research topic guidance (II) 第 5回 Progress assess (I) 第 6回 Progress assess (II) 第 7回 Progress assess (III) 第 8回 Progress assess (IV) 第 9回 Progress assess (V) 第 10回 Progress assess (VI) 第 11回 Progress assess (VII) 第 12回 Progress assess (VIII) 第 13回 Progress assess (IX) 第 14回 Presentation practice 第 15回 Presentation practice				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	Graduation paper (80%) Graduation paper presentation (20%)				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				